マツダ 会社概況 2008

はじめに

企業ビジョン（1999年12月制定）

マツダは1999年、「企業ビジョン」を制定しました。「企業ビジョン」は、「Vision（企業目標）」、「Mission（役割と責任）」、「Value（マツダが生み出す価値）」の3つの要素で構成され、マツダとマツダの社員が目指すもの、その役割と責任、それをどのような価値観をもって達成するのかを表わしています。

Vision

新しい価値を創造し、最高のクルマとサービスにより、お客様に喜びと感動を与え続けます。

Mission

私たちは情熱と誇りとスピードを持ち、積極的にお客様の声を聞き、期待を上回る創意に富んだ商品とサービスを提供します。

Value

私たちは誠実さ、顧客志向、創造力、効率的で迅速な行動を大切にし、意欲的な社員とチームワークを尊重します。
環境と安全と社会に対して積極的に取り組みます。そしてマツダにつながる人々に大きな喜びを提供します。

マツダブランドシンボル（1997年6月制定）

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの〈M〉の形に象徴しています。

マツダコーポレートマーク（1975年制定）

1975年のCI導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボル（マツダシンボル）として制定しました。その後、1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています。

mazda

「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー（Ahura Mazda）に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、創業者の松田重次郎（じゅうじろう）の姓にもちなんでいます。

目　次 Contents

はじめに …… 1
会社の概要と実績 …… 2
役員 …… 4
主な関連会社 …… 6
研究開発 …… 8
地域別の活動
　日本 …… 9
　北米 …… 12
　欧州 …… 14
　中国 …… 16
　アジア・大洋州 …… 18
　カリブ・中南米・中近東・アフリカ …… 20
経営計画 …… 22
技術開発長期ビジョン …… 23
環境問題への取り組み …… 24
安全への取り組み …… 26
社会貢献活動 …… 28
ブランド戦略の展開 …… 30
社員 …… 31
フォードとの関係 …… 32
社歴 …… 33
製品名の由来 …… 39
製品一覧 …… 40

会社の概要と実績

会社概要 （2007年12月31日現在）

社　　名	マツダ株式会社（英訳名:Mazda Motor Corporation）
会 社 設 立	大正9年（1920年）1月30日
本　　社	〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地3番1号
代　表　者	代表取締役会長兼社長　井巻久一
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
株　　式	発行可能株式総数　3,000,000,000株 発行済株式総数　1,418,509,399 株（2008年3月31日現在） 株　主　数　61,900名（2008年3月31日現在）
資　本　金	150,068,000,602 円（2008年3月31日現在）
従 業 員 数	21,823名（2008年3月31日現在）（単独:出向者を含む）
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダモーターオブアメリカ（米国）、マツダモーターヨーロッパ（ドイツ）、中国技術支援センター
生 産 拠 点	国　内：本社工場（本社、宇品）、防府工場（西浦、中関）、三次事業所 海　外：米国、中国、台湾、タイ、フィリピン、イラン、ジンバブエ、南アフリカ、エクアドル、コロンビア
物 流 拠 点	国　内：9箇所
販 売 会 社	国　内：292社 海　外：123社
主 要 製 品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン、自動車用手動／自動変速機

グローバル生産

（台）

		2005年	2006年	2007年
グローバル		1,244,521	1,311,027	1,291,744
	国　内	864,929	966,547	995,511
	海　外	379,592	344,480	296,233

グローバル販売

（台）

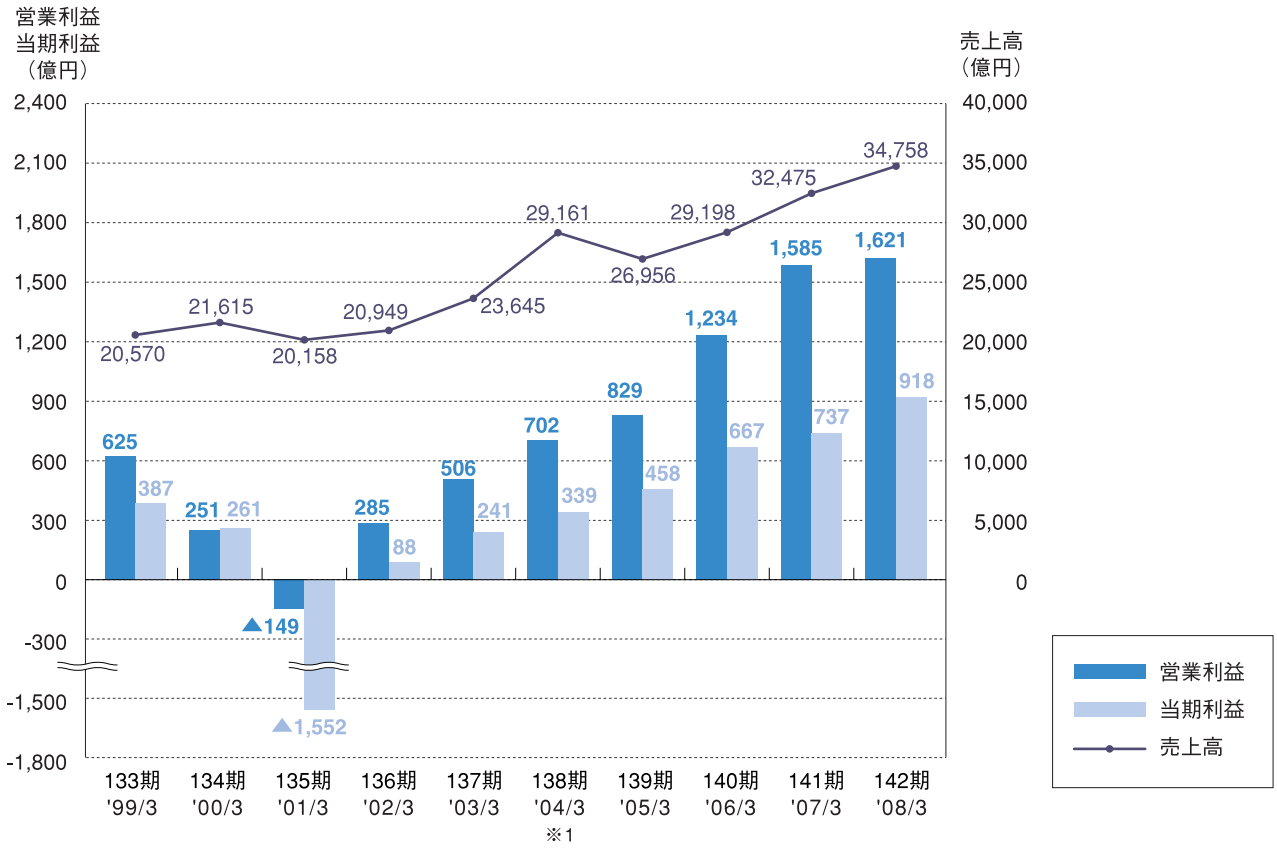
		2005年	2006年	2007年
グローバル		1,260,489	1,286,169	1,335,147
	日　本	286,891	269,220	254,137
	北　米	344,976	363,835	404,009
	欧　州	271,549	306,698	311,247
	中　国	133,778	126,063	101,900
	その他	223,295	220,353	263,854

最近の業績（連結ベース）

項　目		単位	138期 ('03.4～'04.3)	139期 ('04.4～'05.3)	140期 ('05.4～'06.3)	141期 ('06.4～'07.3)	142期 ('07.4～'08.3)
	国内	（億円）	8,462	8,456	8,877	8,873	8,801
	海外	（億円）	※1　20,699	18,500	20,321	23,602	25,957
売上高		（億円）	※1　29,161	26,956	29,198	32,475	34,758
営業利益		（億円）	702	829	1,234	1,585	1,621
経常利益		（億円）	580	731	1,015	1,278	1,485
税引前当期利益		（億円）	541	738	1,175	1,185	1,431
当期利益		（億円）	339	458	667	737	918
1株あたり当期利益		（円）	27.84	37.63	51.53	52.59	65.21
設備投資額		（億円）	456	679	721	796	755
減価償却費		（億円）	379	400	458	470	665
研究開発費		（億円）	878	908	957	1,076	1,144
総資産		（億円）	17,956	17,678	17,887	19,078	19,856
純資産		（億円）	2,226	2,678	3,980	4,799	5,542
有利子負債残高		（億円）	6,304	5,281	4,554	4,747	5,050
純有利子負債残高		（億円）	3,581	3,135	2,468	2,322	2,811
キャッシュ・フロー		（億円）	491	359	336	210	102
出荷台数	国内	（千台）	291	294	290	264	257
	海外	（千台）	※1　934	810	859	913	983
		（千台）	※1　1,225	1,104	1,149	1,177	1,240
従業員数		（人）	35,627	35,680	36,626	38,004	39,364

（注）フリーキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計。従業員数は、就業人員数であり出向者を除く。
※1: 138期は、決算期を変更した主要海外子会社の15ヵ月決算の影響を含む。従来方法と比べ連結売上台数は149千台、連結売上高は3414億円それぞれ増加している。

業績推移



※1: 138期は、決算期を変更した主要海外子会社の15ヵ月決算の影響を含む。従来方法と比べ連結売上台数は149千台、連結売上高は3414億円それぞれ増加している。

役員 （2008年8月1日現在）

取締役および監査役

代表取締役会長	井巻　久一 （いまき　ひさかず）
代表取締役	フィリップ・ジー・スペンダー （Philip G. Spender）
代表取締役	山内　孝 （やまのうち　たかし）
代表取締役	デービッド・イー・フリードマン （David E. Friedman）
取締役	ダニエル・ティー・モリス （Daniel T. Morris）
取締役	尾崎　清 （おざき　きよし）
取締役	金井　誠太 （かない　せいた）
取締役	山木　勝治 （やまき　まさはる）
取締役	若山　正純 （わかやま　まさずみ）
監査役（常勤）	山本　順一 （やまもと　じゅんいち）
監査役（常勤）	若松　重喜 （わかまつ　しげき）
監査役	小松　健一 （こまつ　けんいち）
監査役	坂井　一郎 （さかい　いちろう）
監査役	赤岡　功 （あかおか　いさお）

執行役員

（注）　※印は取締役との兼務を示す。

※社長兼CEO（最高経営責任者）	井巻　久一 （いまき　ひさかず）	
※副社長執行役員	フィリップ・ジー・スペンダー （Philip G. Spender）	社長補佐、研究開発・コスト革新・マーケティング・販売・ITソリューション・品質・環境統括
※副社長執行役員	山内　孝 （やまのうち　たかし）	社長補佐、渉外・購買・人事・管理統括、秘書・グローバル監査担当
※専務執行役員兼CFO（最高財務責任者）	デービッド・イー・フリードマン （David E. Friedman）	企画統括
※専務執行役員	ダニエル・ティー・モリス （Daniel T. Morris）	マーケティング・海外販売担当
※専務執行役員	尾崎　清 （おざき　きよし）	コスト革新担当
※専務執行役員	金井　誠太 （かない　せいた）	研究開発担当、株式会社マツダE&T代表取締役社長
※専務執行役員	山木　勝治 （やまき　まさはる）	生産・物流・ITソリューション担当
※専務執行役員	若山　正純 （わかやま　まさずみ）	国内営業・カスタマーサービス担当

常務執行役員	原田　裕司 （はらだ　ゆうじ）	広報・環境担当、CFO（最高財務責任者）補佐、法人販売補佐
常務執行役員	羽山　信宏 （はやま　のぶひろ）	開発品質・パワートレイン開発担当
常務執行役員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン （James J. O'Sullivan）	マツダモーターオブアメリカ, Inc.（マツダノースアメリカンオペレーションズ）社長兼CEO
常務執行役員	丸本　明 （まるもと　あきら）	経営企画・商品企画・財務担当、コスト革新担当補佐
常務執行役員	江川　恵司 （えがわ　けいし）	マツダモーターオブアメリカ, Inc.（マツダノースアメリカンオペレーションズ）執行副社長（EVP）兼COO
常務執行役員	岡　徹 （おか　とおる）	購買担当、コスト革新担当補佐
常務執行役員	マルコム・ディー・ゴフ （Malcolm D. Gough）	販売統括補佐（拡販担当）
常務執行役員	ジェームズ・エム・ミュアー （James M. Muir）	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
常務執行役員	稲本　信秀 （いなもと　のぶひで）	国内営業本部長
常務執行役員	龍田　康登 （たつた　やすと）	品質担当、開発担当補佐（モノ造り革新担当）兼 トーヨーエイテック株式会社代表取締役社長
常務執行役員	エイ・クマール・ガルホトラ （A. Kumar Galhotra）	プログラム開発推進担当、商品企画補佐
常務執行役員	太刀掛　哲 （たちかけ　さとし）	マツダ（中国）企業管理有限公司董事長兼執行総裁兼中国事業本部長
常務執行役員	金澤　啓隆 （かなざわ　ひろたか）	車両開発・技術研究所担当、コスト革新担当補佐
常務執行役員	小飼　雅道 （こがい　まさみち）	生産・物流担当補佐、コスト革新担当補佐、技術本部長
常務執行役員	黒沢　幸治 （くろさわ　こうじ）	人事・コーポレート業務推進・リスクマネジメント・CSR・病院担当
執行役員	三神　司郎 （みかみ　しろう）	国内営業本部プロジェクト担当
執行役員	川上　浩三 （かわかみ　こうぞう）	カスタマーサービス本部長兼マツダパーツ株式会社代表取締役社長
執行役員	山田　憲昭 （やまだ　のりあき）	マツダ（中国）企業管理有限公司COO
執行役員	楠橋　敏則 （くすはし　としのり）	本社工場長
執行役員	中峯　勇二 （なかみね　ゆうじ）	海外販売本部長兼マツダ・サウス・イースト・アジア,Ltd.社長
執行役員	山本　寛 （やまもと　ひろし）	国内営業本部法人販売担当
執行役員	池田　龍司 （いけだ　たつじ）	品質本部長
執行役員	光田　稔 （みつだ　みのる）	人事本部長
執行役員	中野　雅文 （なかの　まさふみ）	防府工場長
執行役員	今井　一基 （いまい　かずき）	購買本部長

主な関連会社

連結子会社 58社 （2008年3月31日現在）

日本における連結子会社

会社名	所有率	業務内容
（株）函館マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）マツダアンフィニ北海道	100.0%	自動車の販売および修理
（株）東北マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）福島マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）北関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
新潟マツダ自動車（株）	100.0%	自動車の販売および修理
（株）甲信マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
静岡マツダ（株）	100.0%	自動車の販売および修理
新岐阜マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
東海マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
（株）北陸マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）京滋マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）関西マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）西四国マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
（株）南九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
沖縄マツダ販売（株）	100.0%	自動車の販売および修理
マツダ部品北海道販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダ部品東北販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダパーツ関東（株）	97.01%	自動車部品の販売
マツダ部品新潟販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダ部品長野販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダパーツ近畿（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダ部品東中国販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダ部品西四国販売（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダパーツ九州（株）	100.0%	自動車部品の販売
マツダモーターインターナショナル（株）	100.0%	自動車卸売（商社）
（株）マツダオートザム	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ中販（株）	100.0%	中古自動車販売
マロックス（株）	99.59%	自動車および部品運送
倉敷化工（株）	75.00%	自動車部品製造販売
マイクロテクノ（株）	100.0%	自動車部品製造販売
（株）マツダ　E&T	100.0%	特装車製造、開発
トーヨーエイテック（株）	100.0%	金属加工機械製造販売
マツダエース（株）	100.0%	保険・不動産等

（注）

（注）2008年7月1日付で「マツダパーツ株式会社」に統合

海外における連結子会社

会社名	所在国	所有率	業務内容
マツダモーターオブアメリカ, Inc.	USA	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダカナダInc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ・モトール・デ・メヒコ　S. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ・セルヴィシオス・デ・メヒコ　S. de R.V. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダ・モトール・デ・メヒコに対する人材サービス
マツダモータース（ドイツランド）G.m.b.H.	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターヨーロッパG.m.b.H.	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダ　オトモビル　フランスS.A.S	フランス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータース　UK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダスイス　S.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモトール　デ　ポルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオートモービルズエスパーニャS.A	スペイン	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターイタリアS.p.A.	イタリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオーストリアG.m.b.H	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモーターロシアOOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダオーストラリアPty Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダモータースオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
コンパニア　コロンビアナ　アウトモトリスS.A.	コロンビア	100.0%	自動車製造販売
マツダセールスタイランド Co., Ltd.	タイ	96.09%	自動車および部品販売（卸売）
マツダサウスイーストアジア Ltd.	タイ	100.0%	アセアン市場の事業統括
PT. マツダモーター　インドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売（卸売）
マツダ（中国）企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括

持分法適用関連会社 13社 （2008年3月31日現在）

日本における持分法適用関連会社

会社名	所有率	業務内容
マツダ部品広島販売（株）	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品山口販売（株）	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品西九州販売（株）	30.0%	自動車部品の販売
（株）マツダプロセシング中国	29.0%	納車点検・架装
ヨシワ工業（株）	33.3%	自動車部品製造販売
（株）日本クライメイトシステムズ	33.3%	自動車部品製造販売
MCMエネルギーサービス（株）	50.0%	蒸気・電力の供給販売
（株）サンフレッチェ広島	21.8%	プロサッカー球団運営

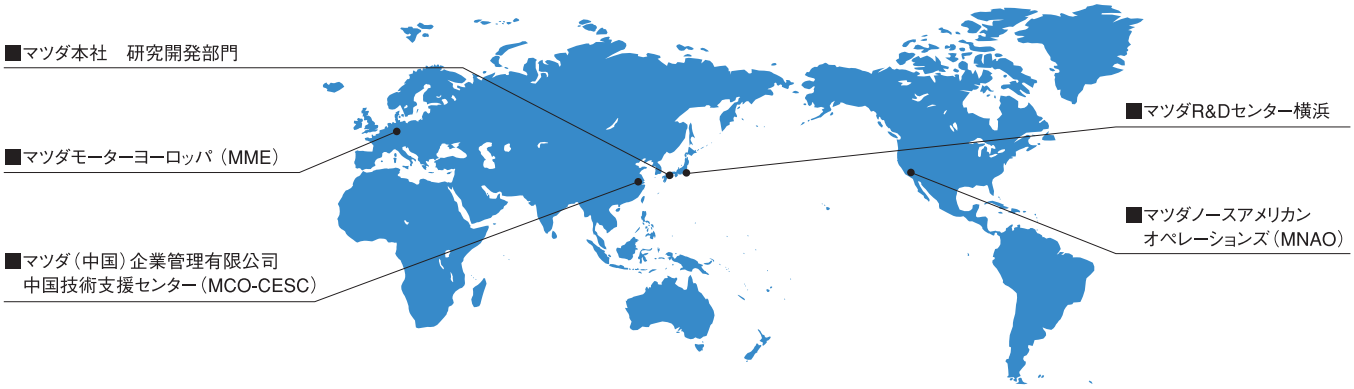
海外における持分法適用関連会社

会社名	所在国	所有率	業務内容
オートアライアンス・インターナショナル,Inc.	USA	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	25.0%	自動車および部品販売（卸売）
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車エンジン製造
長安フォードマツダ汽車有限公司	中国	15.0%	自動車製造工場

研究開発

研究開発拠点

世界の市場動向、先端的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベーティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に5カ所の研究開発拠点を置いています。



		名　称	所在地	主な研究内容
日　本	広　島	本社　研究開発部門	マツダ本社（広島）	・商品、技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	横　浜	マツダR&Dセンター横浜	神奈川県横浜市	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米　国		マツダノースアメリカン オペレーションズ（MNAO）※1	カリフォルニア州 アーバイン ミシガン州 フラットロック	・北米市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
欧　州		マツダモーターヨーロッパ （MME）	ドイツ　ヘッセン州 オーバーウァゼル	・欧州市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中　国		マツダ（中国）企業管理有限公司 中国技術支援センター（MCO-CESC）	上海市	・中国市場における技術／市場動向などの調査、研究

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダカナダInc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコ　S. de R.L. de C.V.」「Plaza Motors Corp.（プエルトリコ）」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）」と呼んでいる。

総合自動車試験場・テスト基地

名　称	所在地	開　設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年 6月	1,677千㎡	新商品の基本性能開発・育成の基幹拠点としての総合試験場として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの基本性能を高めていくとともに、操縦安定性・衝突安全性・耐久性など、さまざまなテストを通じてより快適・安全なクルマづくりに大きく寄与しています。
美祢自動車試験場	山口県美祢市	2006年 5月	603千㎡	三次自動車試験場にないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テスト等、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年 1月	4,700千㎡	寒冷地における積雪路面での4WD・ABS・TCS※2・DSC※3などの安全走行対応や、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年 1月	206千㎡	さまざまな気象環境条件に合わせた車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主として、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行のシステム開発テストを行っています。

※2 TCS（トラクションコントロールシステム）：路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。
※3 DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）：4輪ABS（アンチロックブレーキシステム）とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

日本での生産活動

・マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「マツダR360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。2007年7月には国内生産累計4,000万台を達成しています。

・マツダは国内では広島、防府の2拠点に工場を持ち、人と環境にやさしく、かつ効率的な生産ラインを実現に取り組み、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。

・2007年には中期計画「マツダ・アドバンスメント・プラン」に基づき、宇品工場（広島）および防府工場（山口）の生産能力増強を行い、生産体制を強化しました。

生産拠点概要

名　称	地　区		生産品目	操業開始	土地面積
本社工場	本　社		ガソリンレシプロエンジン、自動車用手動変速機	1931年 3月	551千㎡
	宇　品	宇品第1（U1）工場	デミオ、ベリーサ、ロードスター、RX-8、MPV、CX-9、ボンゴバン、ボンゴブローニイバン、ビアンテ※1、デミオ（3ドアハッチバック）※2	1966年11月	1,685千㎡
		宇品第2（U2）工場	デミオ、プレマシー、CX-7	1972年12月	
			ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン	1964年12月	
三次事業所			ガソリンレシプロエンジン	1974年 5月	1,677千㎡
防府工場	西　浦	防府第1（H1）工場	アクセラセダン、アクセラスポーツ	1982年 9月	792千㎡
		防府第2（H2）工場	アテンザセダン、アテンザスポーツ、アテンザスポーツワゴン、アクセラセダン	1992年 2月	
	中　関		自動車用自動変速機、手動変速機	1981年12月	537千㎡
プレス工業株式会社		尾道工場	タイタンダッシュ、ボンゴトラック、ボンゴブローニイトラック※2		

※1　2008年5月、宇品第1工場でビアンテの生産開始。　※2　輸出用のみ。
（注）本社地区には、本社周辺の所在地（渕崎地区）を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。

国内生産台数推移

（台）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
乗用車	733,295	758,269	806,064	906,862	952,290
商用車	67,789	60,461	58,865	59,685	43,221
合　計	801,084	818,730	864,929	966,547	995,511

車種別国内生産台数ー累計

（2007年12月31日現在）（台）

車　名		2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	生産累計台数
乗用車	デミオ／フェスティバミニワゴン	89,286	82,304	71,594	72,785	121,226	1,138,012
	ベリーサ	—	14,384	15,707	12,557	14,103	56,751
	ファミリア／レーザーリデア	154,405	11,240	5,720	6,740	3,920	10,603,072
	アテンザ	174,699	142,406	141,185	139,848	109,303	823,173
	アクセラ	86,452	316,524	364,668	380,771	417,186	1,565,601
	ロードスター	30,106	24,232	29,950	48,389	37,022	834,315
	RX-8	60,100	50,813	27,837	23,363	13,833	175,946
	プレマシー／イクシオン	30,948	24,592	83,288	121,457	102,580	579,055
	MPV	75,702	67,989	50,163	33,382	19,380	1,041,497
	トリビュート／エスケープ	26,063	19,911	13,005	455	300	119,496
	CX-7	—	—	—	60,812	72,648	133,460
	CX-9	—	—	—	6,303	40,789	47,092
	その他	5,534	3,874	2,947	0	0	12,561,006
計		733,295	758,269	806,064	906,862	952,290	28,636,415
商用車	ボンゴ（バン・トラック）	48,679	45,530	45,719	44,859	33,627	1,908,412
	ボンゴブローニイ（バン・トラック）	6,496	5,247	6,454	7,207	5,350	852,001
	タイタン・タイタンダッシュ	12,614	9,684	6,692	7,619	4,244	1,718,214
	その他	0	0	0	0	0	7,394,844
計		67,789	60,461	58,865	59,685	43,221	11,873,471
総合計		801,084	818,730	864,929	966,547	995,511	40,509,886
内数	ロータリーエンジン搭載車	60,100	50,813	27,837	23,363	13,833	1,979,993
	ディーゼルエンジン搭載車	84,387	89,685	71,515	124,224	86,807	4,544,043

日本での販売活動

主要販売網

（2007年12月31日現在）

	販売会社数	店舗数
マツダ系	38	799
マツダアンフィニ系	17	70
マツダオートザム系	237	262
合　計	292	1,131

チャネル別販売車種

（2007年12月31日現在）

	乗用車															商用車					
	デミオ	ベリーサ	アクセラ	アテンザ	RX-8	ロードスター	プレマシー	ビアンテ ※1	MPV	CX-7	キャロル	AZ-ワゴン	AZ-オフロード	スピアーノ	スクラムワゴン	ボンゴ	ボンゴブローニイ	タイタン	タイタンダッシュ	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●

※1 2008年7月発売

販売台数推移

（台）

		2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
乗用車	登録車	193,481	196,413	196,011	175,954	169,701
	軽自動車	34,136	41,247	41,189	40,177	43,783
	計	227,617	237,660	237,200	216,131	213,484
商用車	登録車	38,856	33,285	38,916	38,574	28,668
	軽自動車	9,134	9,612	10,775	14,515	11,985
	計	47,990	42,897	49,691	53,089	40,653
合　計		275,607	280,557	286,891	269,220	254,137

（注）フォードブランド車は除く。
自販連の通達によりボンゴフレンディは2004年1月より、スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更された。

車名別販売台数

（台）

	車　名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	
乗用車	キャロル	3,760	6,200	9,707	8,019	8,236	
	AZ-オフロード	367	443	578	679	568	
	AZ-ワゴン	19,060	25,799	25,674	27,922	29,214	
	スピアーノ	8,730	6,424	3,472	3,339	2,451	
	スクラムワゴン	—	—	—	—	3,314	※2
	デミオ	88,157	75,754	67,046	60,114	65,480	
	ベリーサ	—	12,810	16,352	12,859	13,850	
	プレマシー	11,283	6,590	28,883	26,887	26,130	
	アテンザ	25,854	18,717	17,208	12,257	7,663	
	アクセラ	5,522	29,917	26,332	24,210	22,978	
	ロードスター	1,520	1,646	3,657	4,067	3,845	
	RX-8	14,627	11,504	7,749	5,330	4,184	
	MPV	34,570	32,286	25,215	28,386	20,525	
	CX-7	—	—	—	883	5,046	
	その他	14,167	9,570	5,327	1,179	0	
	計	227,617	237,660	237,200	216,131	213,484	
商用車	スクラム（バン・トラック）	9,134	9,612	10,775	14,515	11,985	※2
	ボンゴ（バン・トラック）	16,627	16,877	20,237	19,231	15,026	
	ボンゴブローニイ（バン・トラック）	3,347	2,033	2,925	3,257	2,309	
	タイタン・タイタンダッシュ	11,873	10,771	11,889	12,561	7,503	
	ファミリア（バン）	3,837	3,604	3,865	3,525	3,830	
	その他	3,172	—	—	—	—	
	計	47,990	42,897	49,691	53,089	40,653	
総合計		275,607	280,557	286,891	269,220	254,137	

（注）一部速報値を確報値に更新。　（注）フォードブランド車は除く。
※2 スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更した。

輸出活動

輸出台数推移

（台）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
乗用車	547,323	569,037	603,929	716,116	798,892
商用車	6,678	7,144	5,118	4,457	4,084
合計	554,001	576,181	609,047	720,573	802,976

仕向け地域別輸出台数

（台）

		2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
北米		178,352	189,097	202,007	286,202	289,072
ヨーロッパ		214,814	226,489	229,881	269,029	300,196
オセアニア		56,003	63,229	72,461	64,652	68,250
その他		104,832	97,366	104,698	100,690	145,458
	中近東	43,802	35,630	38,360	36,997	56,425
	アジア	31,131	26,605	24,388	15,342	13,912
	アフリカ	7,064	9,051	8,993	9,716	15,783
	中南米	22,835	26,080	32,957	38,635	59,338
総輸出台数		554,001	576,181	609,047	720,573	802,976

車種別輸出台数

（台）

	車名	海外名	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
乗用車	デミオ	Mazda Demio／Mazda2	4,879	8,896	9,117	9,030	56,753
	ファミリア／レーザーリデア	Mazda 323／Ford Laser Lidea	152,687	10,912	6,680	6,720	4,180
	プレマシー	Mazda Premacy／Mazda5	22,952	18,788	50,777	92,321	79,845
	アテンザ	Mazda6	151,460	125,201	122,652	126,945	105,335
	アクセラ	Mazda3	75,701	284,001	338,013	351,110	397,953
	トリビュート／エスケープ	Mazda Tribute／Ford Escape	21,659	16,313	8,196	501	300
	ロードスター	Mazda MX-5※1	29,054	23,153	25,264	43,758	33,870
	RX-8	Mazda RX-8	42,428	41,832	19,408	18,133	10,050
	MPV	Mazda MPV／Mazda8	44,162	38,201	22,582	5,895	353
	CX-7	Mazda CX-7	—	—	—	57,095	69,052
	CX-9	Mazda CX-9	—	—	—	4,608	41,201
	その他	Others	2,341	1,740	1,240	0	0
計			547,323	569,037	603,929	716,116	798,892
商用車	タイタン・タイタンダッシュ	Mazda T-Series／Mazda E-Series	718	562	220	260	200
	ボンゴ（バン・トラック）	Mazda E-Series	5,960	6,582	4,898	4,197	3,884
計			6,678	7,144	5,118	4,457	4,084
総合計			554,001	576,181	609,047	720,573	802,976

（注）海外生産用部品（KDセット）を除く。
※1 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。

地域別の活動

北米

・1971年、マツダは米国に現地法人を設立し、米国でのマツダ車の販売を開始しました。また、1987年にはMMUCで現地生産を開始し、1992年からはフォードと合弁会社としてオートアライアンス・インターナショナル（AAI）に名称変更し、米国での自動車の現地生産を行っています。

・2007年は北米戦略車としてミッド・サイズ・クロスオーバーSUV「CX-9」を導入。同車は2008年1月北米で最も権威のある賞のひとつである「ノース・アメリカン・トラック・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど、大変高い評価を得ています。

・2007年の米国販売台数は、29.6万台と1994年以来13年ぶりに高い販売台数を記録、またカナダの販売台数も4年連続で過去最高を更新しています。また日本・メキシコFTA発効を受け2005年より販売を行っているメキシコでも2年連続で大幅増を続けています。

統括拠点

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米　国	マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO） Mazda North American Operations ※1	❶ カリフォルニア州 アーバイン	1997年10月	—	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	—
		❷ ミシガン州フラットロック				

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダカナダInc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコ　S. de R.L. de C.V.」「Plaza Motors Corp.（プエルトリコ）」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）」と呼んでいる。

生産拠点

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
米　国	❷ オートアライアンス・インターナショナル,Inc. AutoAlliance International, Inc.（AAI）	ミシガン州フラットロック	1987年　9月※2	3,281名	アテンザ	マツダ　50% フォード　50%
	❸ フォード　カンザスシティ Ford Motor Kansas City Assembly Plant	ミズーリ州	2000年　6月	4,683名	トリビュート	フォード　100%

※2 マツダ モーター マニュファクチャリング USA コーポレーション（MMUC）としてマツダ車生産開始。1992年6月に現社名に名称変更。

販売拠点

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米　国	マツダモーターオブアメリカ,Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーバイン	1971年　2月	935名	マツダ　100%
カナダ	マツダカナダInc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年　7月	128名	マツダ　100%
メキシコ	マツダ・モトール・デ・メヒコ　S. de R.L. de C.V. Mazda Motor de Mexico, S. de R.L. de C.V.	メキシコ・シティ	2004年12月	21名	マツダ　99% マツダモーターインターナショナル 1%

オートアライアンス・インターナショナル,Inc.

北米向け新型「Mazda6」（2008年発売）

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年
米　国	オートアライアンス・インターナショナル,Inc.	74,260	71,493	54,335
	フォード　カンザスシティ	40,677	15,043	23,785
合　計		114,937	86,536	78,120

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年
米　国	258,339	268,786	296,109
カナダ	77,867	81,007	86,659
メキシコ	769	7,495	16,604
プエルトリコ※	8,001	6,547	4,637
合計	344,976	363,835	404,009

※プエルトリコではPlaza Motors Corp.で販売している。

市場およびディストリビューター数

（2007年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
北　米	4	4	859

主要販売車種

地　域	北　米			
市　場	アメリカ	カナダ	メキシコ	プエルトリコ
アクセラ	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●
ロードスター	●	●	●	●
CX-7	●	●	●	●
CX-9	●	●	●	●
RX-8	●	●		●
プレマシー	●	●	●	●
トリビュート	●	●		●
Bシリーズ	●	●		●

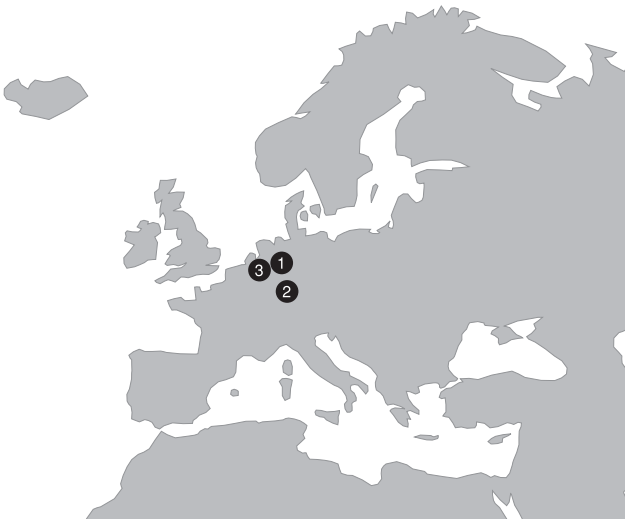
地域別の活動

欧州

・マツダは1967年より欧州でのマツダブランド車の販売を開始し、1972年にはドイツに現地法人を設立しました。

・2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手しました。主要国のディストリビューターをマツダ直轄下に置き、販売・マーケティング活動の効率化や欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。

・2007年は新型「Mazda2（デミオ）」、クロスオーバーSUV「CX-7」を導入しました。2007年の欧州販売台数は31.1万台と6年連続販売増、1991年以来16年ぶりの高い販売台数を記録しました。市場別では、イギリス、ロシア、ギリシャ、ポルトガルで過去最高の販売台数を記録しました。



統括会社

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	機　能	資本構成
ドイツ	❶ マツダモーターヨーロッパG.m.b.H.（MME） Mazda Motor Europe G.m.b.H.	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年 3月	245名	事業所 販売	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V.　100%
	❷（European R&D Centre）	ヘッセン州オーバーウァゼル	1987年12月	97名	研究開発	マツダ　100%
ベルギー	❸ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. （Vehicles and Parts Distribution Center）	アントワープ州ウィルブローク	1998年 8月	552名	事業所 物流、販売	マツダ　100%

販売拠点

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成など
ドイツ	マツダモータース（ドイツランド）G.m.b.H. Mazda Motors（Deutschland）G.m.b.H.	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	159名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イギリス	マツダモータース UK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年 5月	97名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダ オトモビル フランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年 2月	51名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda（Suisse）S.A.	プチランシー	2001年 2月	42名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアG.m.b.H. Mazda Austria G.m.b.H.	クラーゲンフルト	1981年 7月	73名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャS.A. Mazda Automoviles Espana, S. A.	マドリッド	2000年 2月	45名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモトール デ ポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年 2月	21名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリアS.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	61名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ロシア	マツダモーターロシアOOO Mazda Motor Rus, OOO	モスクワ	2005年12月	53名	マツダ　100%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Denmark	バラールップ	2003年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

販売拠点

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成など
スウェーデン	マツダモータースウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバッカ	2004年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	プラハ	2006年10月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモータースロバキア Mazda Motor Slovakia	ヴェルケー・レバーレ	2006年10月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary	ブダペスト	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia	ザグレブ	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
スロベニア	マツダモータースロベニア Mazda Motor Slovenija	リュブリャナ	2008年 4月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパ N.V.　100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland Co., Ltd.	ワルシャワ	2008年 5月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. メルケジ・ベルチカ・トゥルキェ・イスタンブル・シュベシィ Mazda Motor Logistics Europe N.V. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	—	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年
スペイン	フォードバレンシア※	35,928	29,245	14,235

※2007年6月に生産終了。

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年
欧　州	271,549	306,698	311,247

市場およびディストリビューター数（2007年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
欧　州	40	28	2,535

主要販売車種

地　域	欧　州														
市　場	ドイツ	イギリス	オーストリア	イタリア	オランダ	スペイン	フランス	ベルギー	デンマーク	ポルトガル	スイス	ロシア	トルコ	フィンランド	ギリシャ
デミオ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ロードスター	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
CX-7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
CX-9												●			
RX-8	●	●													●
プレマシー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
BT-50	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

地域別の活動

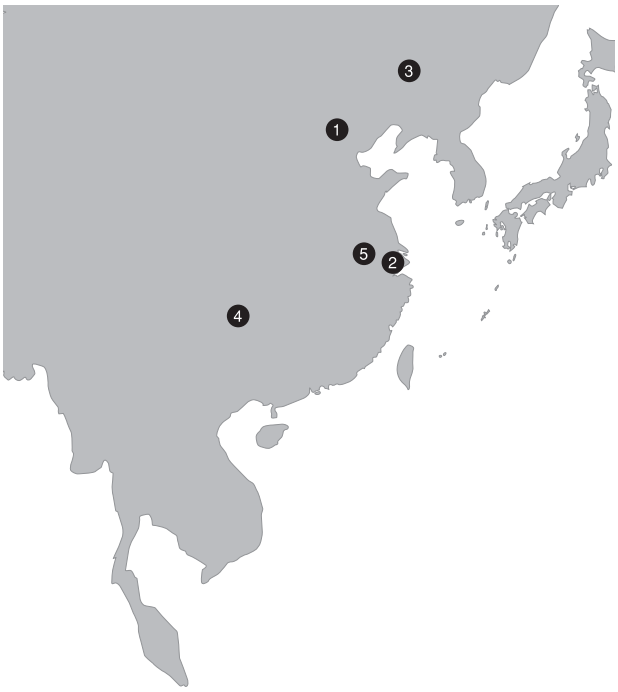
中国

・マツダは2001年より本格的に中国市場に進出し、2007年には「生産」「販売」「商品」の基盤整備がほぼ完了しました。

・2007年には長安汽車、フォードとの合弁会社である南京のエンジン工場、車両工場が稼動を開始し、長春、重慶とあわせた3拠点にて、マツダブランド車を生産しています。

・マツダ（中国）企業管理有限公司では、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括し、統一したブランド戦略を展開しています。

・Mazda6（日本名／アテンザ）、Mazda3（日本名／アクセラ）に続き、2008年1月から長安フォードマツダ汽車南京工場で生産したMazda2（日本名／デミオ）の販売を開始しました。中国の主要セグメントへの商品ラインアップを拡充し、多様化するお客さまのニーズに対応しています。



統括事務所

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な機能	資本構成
中　国	❶ マツダ株式会社北京事務所 Mazda Motor Corporation Beijing Representative Office	北京市 朝陽区	1985年 3月	8名	マツダ直営事務所	―
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司 Mazda Motor（China）Co., Ltd.（略称 MCO）	上海市 浦東新区	2005年 1月	33名	中国市場の事業統括	マツダ　100%
	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司　北京分公司 Mazda Motor（China）Co., Ltd. Beijing Branch （略称 MCO-Beijing）	北京市 朝陽区	2007年11月	7名	MCO支社	―
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司　中国技術支援センター Mazda Motor（China）Co., Ltd. China Engineering Support Center（略称 MCO-CESC）	上海市 嘉定区	2005年 8月	66名	MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、購買、品質、サービス領域の技術支援	―

生産拠点

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産品目	資本構成
中　国	❸ 一汽乗用車有限公司 FAW Car Co. Ltd.（略称 FCC）	吉林省 長春市	2003年 3月	7,114名	アテンザ	現地　100%
	❹ 長安フォードマツダ汽車有限公司 Changan Ford Mazda Automobile Co.,Ltd. （略称 CFMA）	重慶市	2006年 2月 （2001年 4月 長安フォード 設立）	7,145名	アクセラ	長安汽車 50% フォード　35% マツダ　15%
	❺ 長安フォードマツダ汽車有限公司 南京公司 Changan Ford Mazda Automobile Co.,Ltd. （Nanjing Company）（略称 CFMA-Nanjing）	江蘇省 南京市	2007年10月	1,541名	デミオ	
	❺ 長安フォードマツダエンジン有限公司 Changan Ford Mazda Engine Co.,Ltd.（略称 CFME）	江蘇省 南京市	2007年 4月 （2005年 9月 設立）	1,509名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ　25% フォード　25%

長安フォードマツダ汽車有限公司 南京公司

長安フォードマツダ エンジン有限公司

中国向け「Mazda2セダン」

販売拠点

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成など
中　国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd.（略称 FMSC）	吉林省 長春市	2005年 3月	239名	一汽乗用車　70% マツダ　25% 第一汽車集団　5%
	長安マツダ汽車販売 Changan Mazda Motor Sales（略称 CMSC）	北京市 朝陽区	2007年 4月	102名	長安フォードマツダ汽車有限公司の販売部門

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年
中　国	一汽乗用車	55,758	46,640	57,661
	長安フォードマツダ汽車	―	3,490	40,087
	一汽海馬汽車※1	75,066	74,601	12,141
合　計		130,824	124,731	109,889

※1　一汽海馬汽車は2007年12月に契約終了。

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年
中　国	133,778	126,063	101,900

ディストリビューター数

（2007年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
中　国	1	2	156

主要販売車種

市　場	中国
デミオ	●
アクセラ	●
アテンザ	●
RX-8	●
プレマシー	●

地域別の活動

アジア・大洋州

・マツダは、1998年よりタイにおけるフォードとの合弁生産工場オートアライアンス（タイランド）（AAT）において、ピックアップトラックの現地生産を行っており、2007年にはAATでの累計生産100万台を突破しました。

・2007年10月にはAAT社での新乗用車工場建設を発表し、現在新工場を建設中です。2009年内からマツダとフォードの小型乗用車生産を開始する予定です。

・オセアニア地域のオーストラリアでは、1999年以降好調な販売を続けており、2007年は7.7万台と過去最高の販売台数を記録しました。

統括会社

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ　イ	❶ マツダサウスイーストアジア リミテッド Mazda South East Asia, Limited（MSEA）	バンコク	2005年 8月	10名	ASEAN市場の事業統括	マツダ　100%

生産拠点

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台　湾	❷ 福特六和汽車股份公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd.（略称 FLH）	中歴市	1987年 3月	1,577名	アクセラ、プレマシー、トリビュート	フォード　70% 現　地　30%
タ　イ	❸ オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd. AutoAlliance（Thailand）Company Limited （略称 AAT）	ラヨーン県イースタン・シーボード工業団地	1998年 5月 （1995年11月設立）	3,715名	BT-50	マツダ　45% フォード　50% マツダセールス（タイランド）5%
フィリピン	❹ フォードモーターカンパニーフィリピン Ford Motor Company Philippines, Inc.	サンタ・ロサ	2004年 2月	727名	アクセラ、トリビュート	フォード　100%

販売拠点

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
タ　イ	マツダセールス（タイランド）Co.,Ltd Mazda Sales（Thailand）Co., Ltd.	バンコク	1990年 6月	43名	マツダ 96.1% KKS　3.9%
インドネシア	PT. マツダ モーター インドネシア PT. Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年 2月	14名	マツダ　99.96% MSEA　0.04%
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州 ノッティングヒル	1967年 4月	157名	マツダ　100%
ニュージーランド	マツダモータースオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド州 マウントウエリントン	1972年 6月	26名	マツダ　100%

オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.

Mazda BT-50

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年
台　湾	福特六和汽車	24,933	21,290	15,845
タ　イ	オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.	35,003	43,570	51,886
マレーシア	アソシエーティッドモータース※1	1,458	540	190
フィリピン	フォードフィリピン	―	―	285
インド	スワラジマツダ※2	12,607	10,379	2,939

※1　マレーシアのアソシエーティッドモータースインダストリー社は2008年3月に契約終了。
※2　インドのスワラジマツダ社とは2005年8月に資本関係を解消。

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年
アジア（中国以外）	61,089	50,099	43,740
オセアニア	74,024	71,272	85,883

ディストリビューター数

（2007年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
アジア（中国以外）※3	10	10	207
オセアニア	12	12	200

※3 インド除く。台湾含む。

主要販売車種

地　域	アジア							オセアニア	
市　場	台　湾	タ　イ	シンガポール	フィリピン	インドネシア	香　港	マレーシア	オーストラリア	ニュージーランド
デミオ			●			●		●	●
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●		●	●	●	●	●	●	●
ロードスター		●	●	●		●		●	●
CX-7			●		●			●	●
CX-9				●	●			●	
RX-8			●		●	●		●	●
プレマシー	●		●		●	●	●		
MPV						●			
トリビュート	●			●	●				
E-シリーズ						●			●
BT-50		●			●		●	●	●

地域別の活動

カリブ・中南米・中近東・アフリカ

マツダ事務所

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容
アラブ首長国連邦	❶ マツダ中近東事務所 Mazda Representative Office（Middle East）	ドバイ	1982年3月	5名	販売店への販売・サービス支援・指導業務

生産拠点

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
コロンビア	❷ コンパニア コロンビアナ アウトモトリスS.A.※1 Compania Colombiana Automotriz S.A.（CCA）	ボゴタ	1983年4月	1,360名	アクセラ、アテンザ、BT-50	マツダ　95% マツダモーターインターナショナル 5%
エクアドル	❸ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A.（マレサ） Manufacturas, Armadurias y Repuestos Equatorianos S. A.（MARESA）	キト	1986年11月	813名	BT-50	現地　100%
ジンバブエ	❹ ウィローベールマツダモーターインダストリーズ Willowvale Mazda Motor Industries（PVT）Ltd.	ハラレ	1980年7月	268名	ファミリア、アクセラ、Bシリーズ、タイタン、BT-50	MOTEC　58% マツダ　25% Workers Trust　9% 伊藤忠商事　8%
南アフリカ	❺ フォードモーターカンパニーオブ サザンアフリカPty, Ltd. Ford Motor Company of Southern Africa.（Pty）Ltd.	プレトリア	1963年6月	4,239名	アクセラ、BT-50	フォード　100%

※1 コンパニア コロンビアナ アウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産を開始。

販売拠点

（2007年12月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	コンパニア コロンビアナ アウトモトリスS.A.※1 Compania Colombiana Automotriz S.A.（CCA）	ボゴタ	1973年10月	1,360名	マツダ　95% マツダモーターインターナショナル　5%

※1 コンパニア コロンビアナ アウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産を開始。

生産台数

（台）

		2005年	2006年	2007年
コロンビア	コンパニア コロンビアナ アウトモトリスS.A	2,839	3,664	5,620
エクアドル	マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A.（マレサ）	4,314	5,349	6,236
イラン ※2	バーマンモーター	10,585	12,135	3,342
ジンバブエ	ウィローベール	1,213	926	1,611
南アフリカ	フォードサザンアフリカ	4,951	6,115	6,035

※2 イラン バーマンモーターは2007年でKD生産を終了。

販売台数

（台）

	2005年	2006年	2007年
カリブ・中南米	32,633	39,789	56,927
中近東	39,674	40,223	55,399
アフリカ	15,875	18,970	21,905

ディストリビューター数

（2007年12月31日現在）

	市　場	ディストリビューター数	拠点数
カリブ・中南米	34	36	228
中近東	11	11	223
アフリカ	19	19	225

主要販売車種

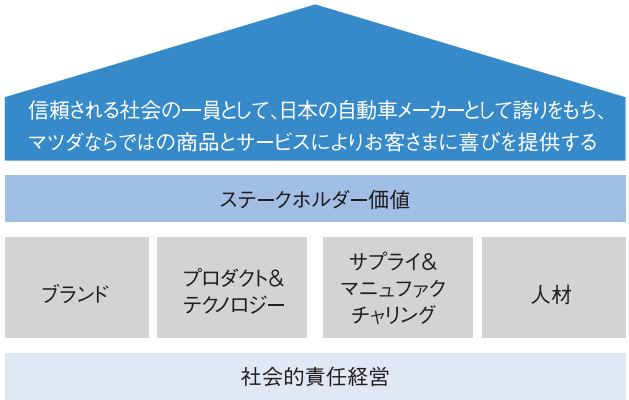
地　域	カリブ・中南米						中近東				アフリカ	
市　場	コロンビア	チリ	ベネズエラ	エクアドル	グアテマラ	エルサルバドル	イスラエル	サウジアラビア	アラブ首長国連邦	シリア	ジンバブエ	南アフリカ
デミオ	●	●	●		●	●	●			●		●
ファミリア	●		●	●								
アクセラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アテンザ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
ロードスター		●			●	●	●	●	●			●
CX-7	●	●	●		●	●						●
CX-9	●	●		●	●	●		●	●		●	
RX-8		●			●	●						●
プレマシー	●	●	●	●	●	●	●			●		●
E-シリーズ					●	●		●	●	●		
BT-50	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

経営計画

マツダは、先の中期計画「マツダモメンタム（2004年度～2006年度）」期間中に10年先を見据えた長期ビジョンを策定し、その実現と長期的な成長を持続させるため、「モノ造り革新」を中心とするビジネス構造改革を加速させています。また、2007年度から2010年度までの4年間を対象とする中期計画「マツダ アドバンスメント プラン（Mazda Advancement Plan）」に取り組んでいます。
さらに2007年3月には技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定し、走る歓びと環境安全性能のいっそうの調和を進めています。

長期ビジョン

マツダの目標は、大規模な自動車メーカーになることではなく、ワクワクする所有体験を与えるマツダならではの商品とサービスを提供し続ける企業として、全てのステークホルダーの方々から喜ばれ信頼されることです。
わたしたちは10年先を見据えた長期ビジョンの実現と長期的な成長を持続するために「モノ造り革新」を中心とするビジネス構造改革を加速します。

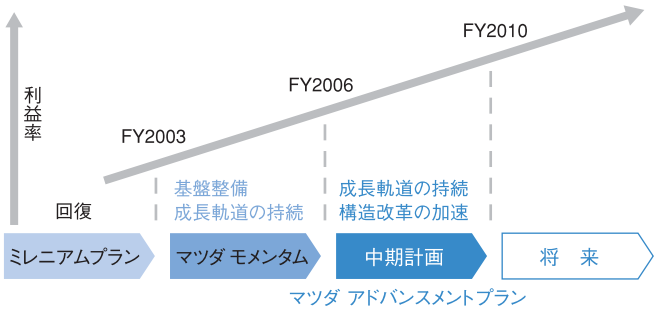


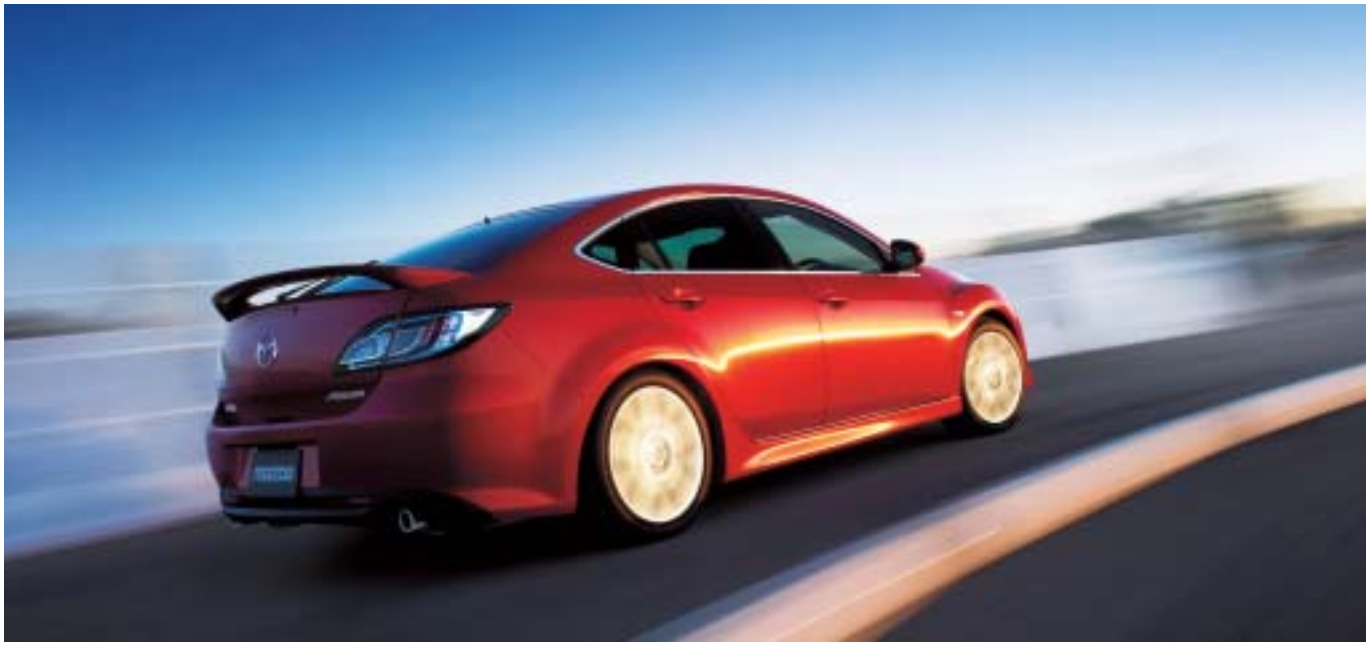
中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」（2007年度～2010年度）

マツダは2007年度から2010年度までの4年間を、モノ造り革新を中心とする構造改革を加速し、将来に向けて前進（アドバンス）する期間と位置付け、成長軌道を持続させつつ、ブランド価値とビジネス効率の向上に注力していきます。

2010年度目標

- ●グローバル小売台数／160万台以上
- ●連結営業利益／2,000億円以上
- ●連結営業利益率／6%
- ●配当性向／着実な向上

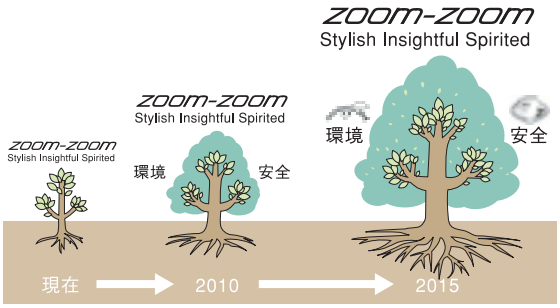




技術開発長期ビジョン

「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」

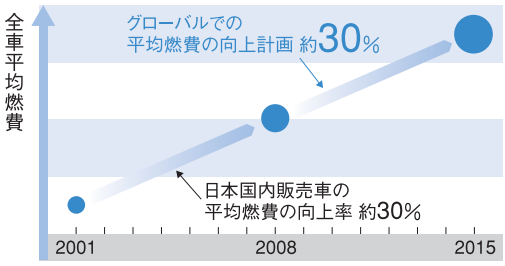
2007年3月、マツダはブランド価値を向上していく技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定しました。
これは「いつまでも『ワクワク』するクルマ、『見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる』クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられるサステイナブルな未来の実現に向けてマツダが取り組むこと」を宣言したものです。
私たちは、この宣言にもとづき、走る歓びと環境安全性能が調和した、進化する“Zoom-Zoom”の世界を追求していきます。そしてマツダの“Zoom-Zoom”の木をもっと大きく育てていきます。



2015年までにマツダ車の燃費を30%向上

自動車の保有台数が世界で拡大を続ける中、各自動車メーカーは排出ガスのクリーン化による大気環境の改善や、燃費向上によるCO_2の削減、さらには枯渇が危惧される化石燃料への依存低減などにこれまで以上に取り組んでいかなければなりません。
こうした課題に対し、マツダはマツダ車を購入いただいた全てのお客さまに走る歓びと優れた環境安全性能を提供するという基本ポリシーのもと、2008年にCO_2排出削減に向けた取り組みについて発表しました。2015年までにパワートレインの一新と新型プラットフォームなどの導入により、グローバルで販売するマツダ車の平均燃費を30%向上させる計画です。

平均燃費の向上



技術開発計画における今後の主な取り組み

パワートレイン

	技術取り組み	達成目標
ガソリンエンジン	**新ガソリンエンジン（I4）** 2011年からガソリンエンジンを一新、動力性能、燃費性能を大幅に改善	・動力性能:15～25%向上 ・燃費性能:20%向上
	フレックスフューエルエンジン E85まで対応可能なフレックスフューエルエンジンを2009年度に北欧、北米市場に導入	・E85対応
	スマートアイドリングストップ マツダ独自のスマートアイドリングストップシステムを2009年度に日本市場に導入	・燃費性能:7～8%向上（日本）
ディーゼルエンジン	**新型クリーンディーゼルエンジン** 2011年から新型ディーゼルエンジンをグローバルに展開	・排出ガス性能の向上 ・燃費性能:20%向上
トランスミッション	**新型オートマチックトランスミッション** 2011年にマニュアルトランスミッション並みの走行感と燃費性能を向上させた新型オートマチックトランスミッションを市場導入	・走行性能:MT並みの走行感の実現 ・燃費性能:MT並みを達成
ロータリーエンジン	**新型ロータリーエンジン** 動力性能、燃費性能を大幅に改善した新型ガソリンロータリーエンジンを2010年代初頭に市場導入	・動力性能／燃費性能の劇的改善
	水素ロータリーエンジン ・2008年から「マツダRX-8ハイドロジェンRE」30台をノルウェーのHyNor（ハイノール）プロジェクトに順次納入する ・2008年度に動力性能と航続距離を向上させたプレマシーハイドロジェンREハイブリッドのリース販売を開始 ・3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能と航続距離を400kmに向上させた新型ハイドロジェンRE搭載車の実用化を計画	・動力性能:40%向上（プレマシー） ・航続距離:200km（プレマシー） ・3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能 ・航続距離:400km（新型ハイドロジェンRE）
ハイブリッド	**ガソリンハイブリッド車** フォード技術の活用およびマツダ独自のシステムを含め、2010年代初頭に高効率なガソリンハイブリッド車を市場導入	・燃費性能100%向上

デザイン&プラットフォーム

	技術取り組み	達成目標
デザイン& プラットフォーム	**新型プラットフォーム** 2011年から段階的に展開する新型プラットフォーム採用車では、100kg以上の軽量化を目指す	プラットフォーム100kg以上軽量化

車両技術

	技術取り組み	達成目標
セーフティ	**ヒューマン・マシン・インターフェース（HMI）／ダイナミクスセーフティ** 正しい認知・判断をサポートするHMIと、操作しやすく危険を回避可能なダイナミック性能など、マツダらしい“Zoom-Zoom”な安全技術を導入	・正しい認知・判断をサポートするHMI ・操作しやすく、危険を回避可能な ダイナミック性能
	ITSによる渋滞・事故防止 政府、社会インフラと協力した安全への取り組みとして、広島地域でのITS実証実験を開始	・広島地域での実証実験 ・インフラ協調による運転支援システム
材料技術 生産技術	**バイオプラスチック** ・産学官連携で植物由来によるカーボンニュートラルなバイオプラスチックを開発し、2008年度中にリース販売開始予定のプレマシーハイドロジェンREハイブリッドに採用する ・2013年までに食糧と競合しないセルロース系バイオマスを原料としたバイオプラスチック技術開発を行い、自動車への実用化を計画	
	独自水性塗装技術 スリー・ウエット・オン塗装をさらに進化させ、VOC排出量をさらに57%削減する革新的な水性塗装技術を2009年に導入、世界で最もクリーンな塗装工場を目指す	VOC排出量:57%削減

環境問題への取り組み

マツダは、1992年にマツダの環境基本方針を定めた「マツダ地球環境憲章」を策定し、環境問題への取り組みを進めて参りました。2005年3月にはこれを社会的責任（CSR）の観点から見直し改訂を行いグループ企業と一体となって地球環境保護に取り組む姿勢を表明しました。2006年には環境中期計画「マツダグリーンプラン2010」を策定し、取り組み項目と方針を明確化し、2010年度目標の達成に向けて着実に環境への取り組みを進めています。

マツダ地球環境憲章（1992年制定、2005年改定）

【環境理念】

「マツダグループは国内外すべての企業活動において、自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します」

【基本理念】

●私たちは地球にやさしい技術と商品を創造し、社会に提供します。
●私たちは資源やエネルギーを大切にし、環境を配慮した事業活動を行います。
●私たちは社会や地域と共に、よりよい環境をめざした活動をします。

マツダグリーンプラン2010 取り組み領域

1.環境を配慮した技術と商品の創造

①排出ガスのクリーン化
②燃費向上（CO_2低減）
③車両の軽量化
④自動車騒音の低減
⑤代替燃料車の開発
⑥環境負荷物質使用量の低減
⑦車室内VOC（揮発性有機化合物）の低減
⑧自動車リサイクルの推進（開発段階）

2.資源・エネルギーを大切にする活動

⑨廃棄物の低減
⑩温暖化防止
⑪自動車リサイクルの推進

3.クリーンさを追求する事業活動

⑫VOC排出量低減

4.事業活動の仲間と共に、よりよい環境づくり

⑬購買取引先と活動充実
⑭販売会社の環境保全活動推進
⑮部品販売会社の環境保全活動推進
⑯環境啓発活動の推進

5.社会や地域と共に、よりよい環境づくり

⑰社会とのコミュニケーション推進
⑱社会貢献活動の推進

環境技術（低燃費・低排出ガス）

直噴ガソリンエンジン

マツダでは「環境性能」と「走る感動」を高い次元で両立した「DISIターボエンジン」をMPVやCX-7などの車種に搭載しています。これは、直噴システムに、燃焼室に空気を送り込むターボチャージャー（過給器）を組み合わせることにより、鋭い加速、低中速域での太いトルクに優れた応答性、クリーンな排出ガス、低燃費などを実現した画期的なレシプロエンジンです。

クリーンディーゼル

燃料を効率よく燃やす「コモンレール式直噴ターボディーゼルエンジン（MZR-CD）」に、粒子状物質（PM）を捕集するDPF（Diesel Particulate Filter）などの後処理技術を加えることによって、欧州の自動車排ガス規制である「Euro4」を大幅にクリアするクリーンなディーゼルエンジン車を実用化し、さまざまな車種に搭載しています。

ミラーサイクルエンジン＋CVT

自然吸気MZR1.3L「ミラーサイクル」エンジンを新開発し、2007年7月から国内で発売した新型デミオに搭載しました。またマツダ車としては初めてCVT（自動無断変速機）との組み合わせで10・15モード燃費23km/Lを実現しています。

スマートアイドルストップシステム

マツダは、信号待ちなどで停車した時にエンジンを自動的に停止させ、発進時にはエンジンを自動的に再始動させる、燃費向上システムの開発に取り組んでいます。この技術は、2009年度に日本と欧州市場に導入する計画です。

軽量化

マツダでは、“Zoom-Zoom”なクルマ造りを目指し、クルマ造りの様々な領域で軽量化を推進しています。新型デミオではさまざまな部位で可能な限りの軽量化を徹底的に行い、先進の軽量化技術と各部構造の最適化などによって、安全性能を向上させながら、前モデル比で約100kgの軽量化を実現しました。

代替燃料車の開発

水素ロータリーエンジン車

マツダは早くから循環型のエネルギーとして有望な水素に注目し、水素自動車の開発を続けてきました。「水素ロータリーエンジン」はCO_2を全く排出しない環境に優しいクリーンエンジンです。2006年には、マツダ「RX-8ハイドロジェンRE」として国内でリース販売を開始しました。さらに、実用性を大幅に改善した「プレマシーハイドロジェンREハイブリッド」の開発にも取り組んでいます。

ハイブリッド車

マツダは、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせたハイブリッドカーの開発に取り組んでいます。2007年夏にはフォードと連携し「トリビュートハイブリッド」を米国で発売しました。MZRエンジンとハイブリッドシステムの組み合わせにより、クリーンな排出ガスと優れた燃費性能、3.0L並みの力強く滑らかな加速を実現しています。

バイオテクノロジー（マツダバイオテックマテリアルの開発）

バイオプラスチック

マツダは、2006年に広島県の産官学の連携で、自動車内装部品に使用できる外観品質や強度、耐熱性を持ち、射出成形可能でカーボンニュートラル*な植物由来の樹脂素材「バイオプラスチック」の開発に自動車業界で初めて成功しています。

*分解や燃焼の際に放出するCO_2は、成長過程で光合成によって吸収したCO_2を再放出しているため、大気中のCO_2の増減に影響を与えない性質のこと。

バイオファブリック

世界で初めて植物由来100%の繊維からなるバイオファブリックの開発に成功しました。バイオファブリックとバイオプラスチックを東京モーターショーで出展した水素自動車「プレマシーハイドロジェンREハイブリッド」で実用化しています。

自動車リサイクルの推進

バンパーtoバンパー技術

マツダは自動車の樹脂部品のリサイクルに積極的に取り組んでおり、損傷バンパーを素材に戻して再びバンパーの素材として利用する業界初の「バンパーtoバンパー」技術を確立しています。2005年3月生産のRX-8から導入を開始し、現在では幅広い車種へ展開を拡大しています。

生産工程での環境負荷低減

スリー・ウエット・オン塗装

スリー・ウエット・オン塗装とは、「中塗り」「着色ベース」「クリア」の3層をそれぞれ乾燥させないままウェットな状態で塗り重ね1回の焼付乾燥で仕上げることにより、従来の塗装方法に比べCO_2の排出量を15%、VOCの排出量を45%削減した環境に優しい塗装技術です。マツダの国内のすべての工場に導入しています。

高付き回り電着塗装

高付き回り電着塗装は、塗料特性を改良することにより電着塗装の効率化を図り、VOCやCO_2の排出量を大幅に削減した環境に優しい塗装技術です。これにより、

・下塗り塗装工程におけるVOC排出量を年間32トン削減
・塗料製造工程におけるCO_2排出量を年間8.8トン削減
・下塗り用塗料使用量を従来比10%以上削減

しています。

安全への取り組み

マツダは安全性能確保をクルマ造りの基本の一つと考え、さまざまな技術や装備の開発に努めています。独自の「安全ポリシー」を掲げ、世の中の安全技術よりもさらに高いレベルの安全性能を追求し、研究開発を重ねています。万が一事故が発生した際に乗員の被害を軽減する「パッシブセーフティ技術」や交通事故の発生を予防する「アクティブセーフティ技術」など様々な観点から安全技術の開発に取り組んでいます。また、最先端の情報通信技術を用いて、道路と車両とを情報ネットワークで結ぶことによって交通事故や渋滞などの交通道路問題の解決を目指す交通システム「ITS（Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム）」にも産学官で連携して取り組んでいます。

安全ポリシー

「安全は自動車による心豊かな生活を支える基本要件である」との認識のもとに、

1. お客さまの自動車の使い方と使用される社会の交通環境を研究する
2. 安全技術の追求を行い、お客さまにとって最良の技術を適切に商品に反映する
3. 安全コミュニケーション（商品・技術、安全啓発）を通して、安全な社会づくりに貢献する

パッシブセーフティ技術（万一の事故の際に乗員を保護）

高剛性・安全ボディ「MAGMA※1」

高剛性・安全ボディ「MAGMA」は、ボディ前後のクラッシャブルゾーンで衝撃を分散・吸収し、フロア、サイド、ルーフをH型構造で強固に組み合わせたトリプル構造でキャビンの変形を抑制するマツダ独自の技術です。新型マツダ2（日本名：マツダデミオ）が2007年に欧州の衝突安全評価「ユーロNCAP」で成人乗員保護性能について最高ランクである5つ星を獲得するなど、世界中で高く評価されています。

※1 MAGMA= Mazda Geometric Motion Absorptionの略

SRS※2 カーテン&フロントサイドエアバッグシステム

カーテンエアバッグは側面衝突時、サイドウインドーやピラーを覆うように展開し、乗員の頭部などに加わるダメージを軽減します。サイドエアバッグは、フロントシート側面から展開するエアバッグで乗員の胸部の保護に効果があります。

※2 SRS=Supplemental Restraint System（乗員保護補助装置）

クラッシャブルブレーキペダル

前面衝突時にブレーキペダルが室内側に突き出ることを防ぎ、ドライバーの下肢への障害を軽減します。

フロントシートアクティブヘッドレスト

追突されて後方から衝撃をうけた際に、乗員の体がシートバックに押し付けられる力を利用して、ヘッドレストを前方に移動させます。これにより乗員の頭部を早期にしっかり支えて頚部に加わる負担を軽減します。

ショックコーンアルミボンネット

万が一歩行者の頭部がボンネットにあたった時の傷害を軽減するため、ボンネット裏側にあるリブ構造を変更し、軽量アルミ製ボンネットのインナーパネルに多数のくぼみを設置して、エネルギー吸収効率を高めた「ショックコーンアルミボンネット」を開発し、RX-8やロードスターに採用しています。またその他の車種では、ボンネットとエンジンの隙間を拡大、さらにボンネットの衝撃吸収効率を高めるカウルトップ構造を採用しています。

プリテンショナー&ロードリミッター機構付フロントシートベルト

プリテンショナーは、前方からの強い衝撃をうけた時、衝突初期段階で自動的にベルトを巻き取り、乗員の前方移動を抑制します。ロードリミッターは、拘束後にベルトを適切に緩めて乗員の胸部への負担を軽減します。

アクティブセーフティ技術（事故を未然に防止）取り組み領域

マツダレーダークルーズコントロールシステム

先行車の速度や車間距離をレーダーセンサーで計測し、あらかじめ設定しておいた車間距離を保つよう、加速・減速を自動制御し、設定速度を上限として先行車への追従走行を可能にします。先行車がいない場合には、設定速度による定速走行を行い、高速道路などでのドライバーの負担の軽減を行います。

■ マツダレーダークルーズコントロールシステム説明イメージ

マツダプリクラッシュセーフティシステム

レーダーセンサーで前方の車や障害物などを認識し、衝突する危険があると判断した際にはブザーや警告灯で警告。さらに必要に応じて、プリクラッシュブレーキシステムで自動的にブレーキを作動させ、衝突速度を低減、またシートベルトの早期巻き取りも同時に行い、乗員の拘束力を高めて衝突被害の軽減に貢献します。

■ マツダプリクラッシュセーフティシステム説明画面

AFS（アダプティブ・フロントライティング・システム）

スピードとハンドル操作に合わせて、ドライバーが進みたい方向にヘッドライトのロービーム照射軸を左右に回転させます。夜間走行中のカーブや交差点などでの視界、視認性を向上させ、安全走行をサポートします。またオートレベリング機能を組み合わせることにより、車両の姿勢を感知して安定した配光を確保します。

ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム（DSC）（横滑り抑制機構）

4輪個別の制動力制御とエンジントルク制御により、車両の横滑りを抑制します。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のためのステアリング操作時などに安定した走行姿勢を保つとともに、走行状況に応じた高精度な制御を行い、自然な車両コントロール性・挙動を提供します。

リアビークルモニタリングシステム（RVM）

リアビークルモニタリングシステム（RVM）は、高速走行時に、後方から接近する車両を検出し車線変更により衝突の危険性がある場合には、ドライバーに警報を発して注意を喚起する自立型運転支援システムです。2008年1月に発売した「新型アテンザ」に採用しています。

■ リアビークルモニタリングシステム説明イメージ

ロール・スタビリティ・コントロールシステム（RSC）

ロール・スタビリティ・コントロールシステム（RSC）は、横滑りを制御するDSCや自動車の発進・加速時のタイヤの空転を防止するTRC（Traction Control System）と協調して、車両運動をロール方向まで感知して、適切にブレーキをかけることで車両を制御するシステムです。北米を中心に販売している、新型CX-9に搭載しています。

駐車支援システム

フロントグリル内、リアゲート部、左ドアミラーに内蔵されたカメラの映像に、ステアリングの操作角度から算出された予想進路を合成して画面に表示します。後方やバンパー付近など直接目視で捉えにくい部分の視覚情報をアシストし、音声案内を行って駐車動作を支援します。狭い路地での運転や巻き込みの確認、脱輪防止にも役立ちます。

高度道路交通システム（ITS）

ITS（Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム）とは、最先端の情報通信技術を用いて、道路と車両とを情報ネットワークで結ぶことによって交通事故や渋滞などの道路交通問題の解決を目指す交通システムです。マツダは、2008年1月から広島地区の産学官共同で、ITSを活用した安全運転支援技術開発のため、「死角に潜む危険」の認知支援を行う安全技術の実験を始めています。

「マツダMPV」ITS車載器搭載車両

先進安全技術（ASV）

ASV（Advanced Safety Vehicle）とは、1991年より国土交通省が主体となって進めているプロジェクトで、先進技術を利用しより高度で広範囲な安全運転の支援を実現することを目的としています。マツダはこのプロジェクトに第1期より参画しており、「リアビークルモニタリングシステム」など様々な先進安全技術を実用化しています。現在は、車々間通信を利用した安全運転支援システムの研究開発を進めており、2008年3月より先進安全自動車「マツダASV-4」の公道実験を行っています。

先進安全自動車「マツダASV-4」

社会貢献活動

社会貢献活動についての考え方

マツダは「良き企業市民」として社会から信頼され愛されることをめざし、さまざまな社会貢献活動を推進しています。主にボランティアや人的貢献など、地域社会のニーズに即した活動を推進しています。

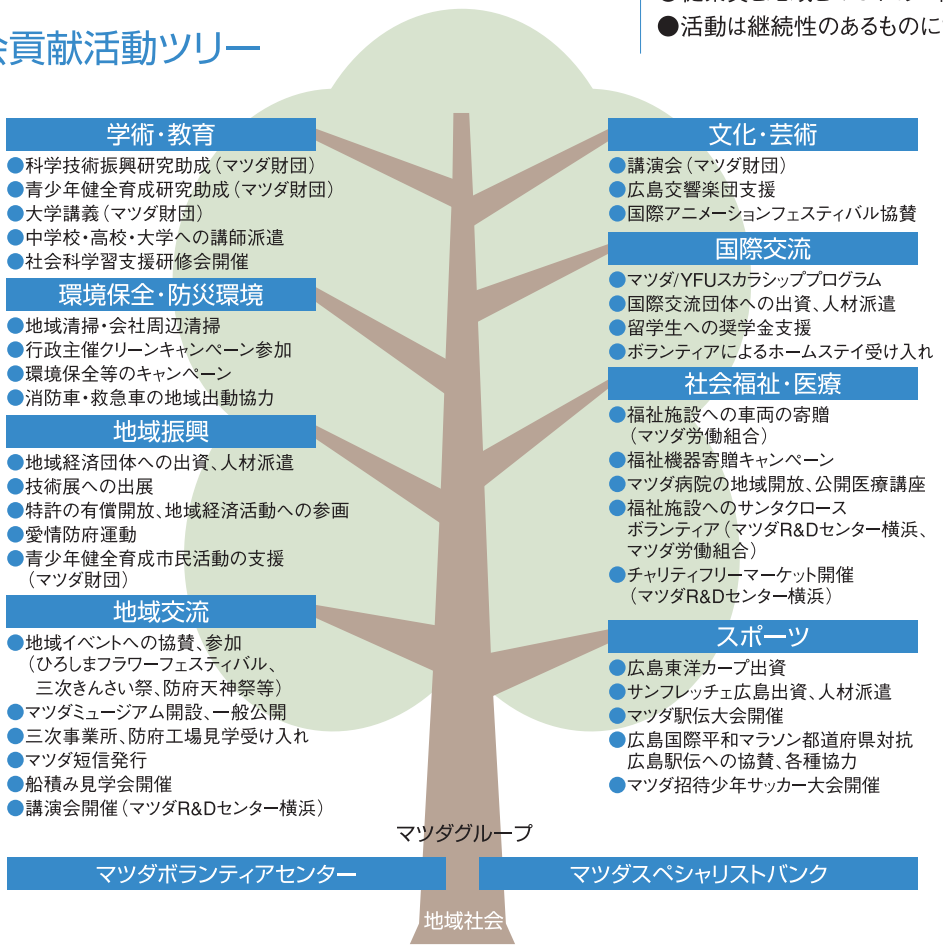
活動の基本理念

企業活動を通じて、地域の経済・産業の活性化に寄与する「良き企業市民」として、地域との連帯・共生に努め、豊かなまちづくりに貢献する。

活動方針

- ●地域ニーズに即した活動を行う
- ●従業員のボランティア活動を重視し、支援する
- ●マツダグループ各社との連携を図る
- ●従業員と地域とのふれあい機会を増やす
- ●活動は継続性のあるものにする

マツダの社会貢献活動ツリー



マツダボランティアセンター

マツダボランティアセンターは、マツダおよびグループ企業の社員によるボランティア活動を支援する目的で1996年に設立しました。地域清掃や環境美化、福祉イベントへの協力など幅広いジャンルでボランティアを実施しています。

海外援助米ボランティア活動

マツダスペシャリストバンク

1994年に設立したマツダスペシャリストバンクでは、マツダおよびグループ企業の社員の中で、専門的な知識・技術・技能や長年培ってきた特技・趣味を持つ人材を募って登録しておき、地域からの様々な要請に応えて派遣しています。

マナー講座

海外での社会貢献活動

南アフリカ

1990年に「マツダ自然保護基金」を設立し、野生生物の保護、環境教育、技術養成、環境マネジメントや雇用創出に助成を行っています。

南アフリカでの自然保護活動

イタリア

マツダモーターイタリアでは、病で苦しむ子どもたちを支援するNPO団体「ピーターパン」の活動をサポートしています。2007年には、施設にマツダ車を寄贈しました。

寄贈した「MPV」

マツダ財団　http://mzaidan.mazda.co.jp/

科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を行い、世界の人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きられる社会づくりに寄与する目的で設立した。
循環型社会の構築や市民活動の活性化に寄与する研究等への助成を中心に、「科学体験」に関する研究会等の助成や地域に密着した市民活動を支援している。その他、青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するこころ」を養うことを目指した「科学わくわくプロジェクト」事業を広島大学と協同で、子どもたちの創意工夫を育む合宿事業を広島市の財団・企業等と連携して実施している。また、広島地区の複数大学での寄付講義や講演会も行う。

設　立	1984年10月	主務官庁　文部科学省
基本財産	10億円	
役　員	理事長　山内 孝、理事12名、監事2名	
所在地	〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地3-1 マツダ（株）内	
連絡先	Tel: 082-285-4611／Fax: 082-285-4612	
主な事業実績（累計）	研究助成 730件、10億1998万円　事業助成 590件、1億5603万円 合計 1,320件、11億7600万円 ・講演会の開催　26回実施　・大学寄付講義　5大学で実施	

ハンダ付けで電波受信機を製作する中学生

「科学わくわくプロジェクト（通称;わくプロ）」：子どもたちが科学にわくわくするような機会を提供するために、広島大学とマツダ財団の連携事業として、2003年度から取り組んでいるプロジェクトです。

小さな女性エンジニアの誕生です

ものづくり体験・科学教室：青少年にモノ作りや加工の技能と素晴らしさを伝える山口県の団体「なんでもかがく塾」など、地域の市民活動をマツダ財団は支援しています。

マツダ財団 USA　http://www.mazdafoundation.org/

良き企業市民として米国社会に貢献することをねらいとして設立され、若者の識字率能力の向上や高等教育、州立、国立公園の環境保護、異文化交流、医学研究に関わる支援に力を入れています。

設　立	1990年9月
基　金	900万ドル
役　員	理事長　ジェームズ・J・オサリバン他、理事4名
所在地	1025 Connecticut Ave., NW, Suite 910, Washington, DC20036
事業実績（累計）	約580万ドル

「シューズ・ザット・フィット」：子どもへの靴の寄贈

マツダ財団 ニュージーランド　http://www.mazdafoundation.org.nz/

ニュージーランドの環境、文化、教育活動を行う個人や団体に援助を行うことを目的に設立。入院中の児童への学習用コンピュータ提供、国の環境保護プロジェクト支援、文化イベント助成、学校への設備提供なども行っています。

設　立	2005年11月
基　金	当初基金　15万NZドル
役　員	理事長　アンドリュー・クリアウォーター、他Directors 4名
所在地	70 Plunket Avenue, Wiri, Manukau City, Auckland 1730, New Zealand
事業実績（累計）	約46万NZドル

「ツリーメンダス・スクール・メイクオーバー」：小学校での植林活動

マツダ財団 オーストラリア　http://www.mazdafoundation.org.au/

青少年の教育、科学技術振興、自然環境保護への助成を行い、地域社会（オーストラリア）の人々の心豊かな生活に寄与することをめざして、設立しました。以来、マツダオーストラリア社だけでなく、マツダ車のディーラー、オーストラリア各地の第三者からの寄付により様々なプロジェクトや活動を支援しています。

設　立	1990年8月
基　金	当初基金50万豪ドル
役　員	理事長　ダグ・ディクソン他、Directors 6名
所在地	385 Ferntree Gully Road, Notting Hill, Victoria 3149, Australia
事業実績（累計）	410万豪ドル

「メルボルン・ロイヤル・チルドレンズ・ホスピタル」の活動

マツダ財団 コロンビア　http://www.mimazda.com/

1990年の設立以来、コロンビア国内で教育と文化活動に助成を行ってきました。物理学、数学、音楽分野などの大学院教育への奨学金の提供やクラシック音楽コンサートのサポート、また教育においては中世古典の研究プロジェクトなどをサポートしています。

設　立	1990年12月
基　金	900万ドル
役　員	社長 他、社外 4名
所在地	Calle 13 No. 38-54 Bogota, Colombia
事業実績（累計）	6,480.2 コロンビアペソ

財団の援助を受けたバイオリンのソリストのコンサート

ブランド戦略の展開

マツダは、1998年以降、一貫してブランド戦略を重要な経営戦略として位置づけています。
1998年4月にマツダブランドが全世界で目指すべき方向性を規定した「ワールドワイドブランドポジショニング（WWBP）」を策定し、マツダブランドの個性とこれからマツダが目指すべき方向を明確にし、これに基づいたブランド戦略を1999年2月より世界各国の市場で本格的に展開してきました。

「ワールドワイドブランドポジショニング」WWBP

ブランドDNA

人格／Personality
- ○ センスの良い／Stylish
- ○ 創意に富む／Insightful
- ○ はつらつとした／Spirited

商品／Product
- ○ 際立つデザイン／Distinctive Design
- ○ 抜群の機能性／Exceptional Functionality
- ○ 反応の優れたハンドリングと走行性能／Responsive Handling and Driving Performance

ブランドメッセージ: Zoom-Zoom（ズーム・ズーム） *日本語の「ブー・ブー」（車が動くときの音）を意味する英語

創造性と革新性で、子供の時に感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に、「心がときめくドライビング体験」を提供する

WWBPは、グローバルで統一されたマツダブランドの個性や方向性を規定したもので、マツダのブランドのDNA（核）を「人格／Personality」と「商品／Product」の2つの属性にわけて規定しています。
ブランドDNAの「人格／Personality」はお客さまに抱いて欲しいブランドイメージを、「商品／Product」は商品がもつ特徴を示しています。

2001年よりマツダブランドを端的に表現するブランドメッセージとして、「Zoom-Zoom（ズーム・ズーム: 子供の頃に感じた動くことへの感動）」を全世界のすべてのコミュニケーション領域で展開しています。

このブランド戦略に基づいた商品を、2002年のアテンザ／Mazda6発売以来、順次世界の主要な市場に導入し、世界のお客さまから好評を得ると同時に、各国の有名メディアやジャーナリストが主催する数々の賞を受賞しています。

今後もこの戦略を継続し、時代や社会の状況に適切に対応しながらマツダブランドの深化／進化を継続していきます。

社員 （2008年3月31日現在）

従業員数

（単位：人）

	従業員		合　計
	男	女	
技能系	10,954	462	11,416
事務・技術系	9,284	1,123	10,407
計	20,238	1,585	21,823

※現行の人事制度で分類。技能系には医務系も含む。出向者を含む。

次世代認定マーク「くるみん」

近年の主な人事施策

プログラム名	内　容	開始時期
早くかえろう運動	間接系職場を対象に、「仕事の効率化」を進めることで現在の長時間労働を改善し、社員一人ひとりが健康でイキイキと創造性を持って働ける環境構築を目指し、労使で実施しました。	2007年 7月
次世代認定マーク「くるみん」を取得	次世代育成支援対策推進法に基づいた子育て支援のための取り組み、実績が認められ、厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。	2007年 5月
エキスパート・ファミリー制度	保有能力・経験などの基準を満たした希望者を、定年退職日の翌日から再雇用し、技能・技術の伝承や、スペシャリストとしての活躍を行う制度です。フルタイム勤務を基本とし、1年単位で契約更新し、最長法定雇用年齢（最大65歳）までの雇用が可能です。	2006年 4月
確定拠出年金制度	個人の成果に応じて拠出される掛金を社員一人ひとりが将来の生活設計を考えて主体的に長期運用を行い、60歳以降で年金および一時金として受け取る制度です。	2004年 7月
フリーエージェント（FA）制度	キャリア開発を支援する施策のひとつで、社員が自己のこれまでのキャリアを基にチャレンジしたい領域や部門の門を叩く制度です。社員一人ひとりがキャリア開発に取り組み、キャリアプランを深く考えてもらうことが狙いです。	2004年 1月
事業所内保育施設 マツダわくわくキッズ園	子育てを行う社員が安心して仕事ができるよう設置した社内保育施設です。 長時間対応・一時保育・手作り給食などの特長の他、体調不調児室も完備しています。2005年4月に定員を40名に増やし、2006年3月には運動場も完成しました。	2002年 4月
マツダフレックスベネフィット	選択型の福利厚生制度。あらかじめ定められたポイントの範囲内で社員個人が選んだ福利厚生メニューの補助が受けられるしくみです。 マツダは福利厚生会社の法人会員となっており、社員はポイント利用とは別にホテルやレジャー施設などの関連施設を安価に利用できます。	2001年10月
女性相談・人権相談デスク	'98年設置の女性相談窓口に加え、全社員を対象にした人権相談の受付、および人権問題の調査と解決を推進する機能を設けました。	2000年10月
スーパーフレックスタイム勤務	個々人の業務と私生活の調和を図りながら業務の成果をあげていく目的で導入した、コアタイムのないフレックスタイム制度です。	2000年10月

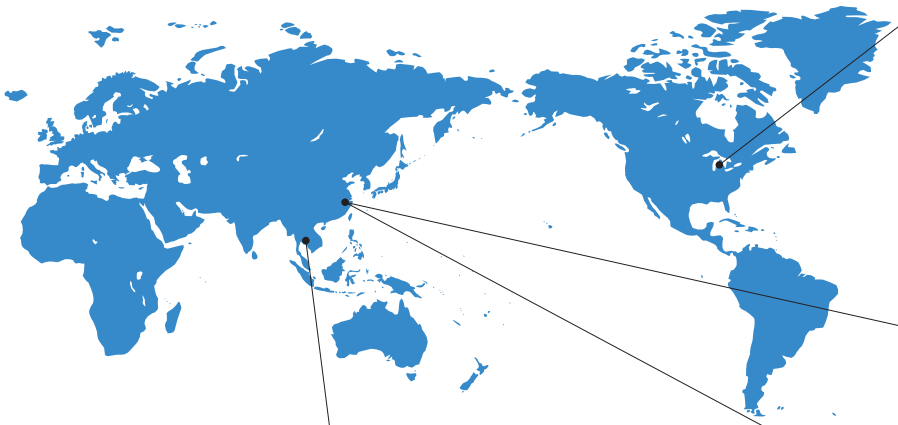
主な社員教育プログラム

プログラム名	内　容	備　考
事務技術系教育（役割研修、ビジネススキル研修）	事務・技術系全社員を対象として、ビジネススキル（業務遂行能力、問題解決能力、人間関係能力、等）の向上や業務取組み姿勢の向上を目的としています。	2007年度受講実績ビジネススキル研修11コース、約800名が受講
技能系教育（役割研修、リーダー研修）	技能系社員を対象として、部門主体の教育と連携を取りながら、個人個人の成長とチームとしての組織力を発揮できる人材育成を目的としています。	2007年度受講実績 リーダー研修4コース、約630名が受講 役割研修4コース、のべ約950名が受講
MBLD（マツダ・ビジネスリーダー開発）	全社員を対象として、①経営戦略の浸透と確実な実行・達成、②経営的視点を持ったビジネスリーダーの社内各階層での育成、さらに③組織文化の変革を目的としています。	2000年7月開始 過去7回（毎年1回）実施
GLP（Leading Mazda 21）	「グローバルリーダープログラム（GLP）」― 次世代の経営者候補を育成するために、企業経営の要諦を学び、経営者としてのマインドセットを行う選抜研修プログラムです。世界中のマツダグループから選ばれた精鋭を対象に、経営トップとのコミュニケーション、世界各地の大学への派遣、チームによる経営課題への取り組みなど、実践的な活動を通して、リーダーシップ、広い視野、戦略構想力などを磨き、次代のグループ経営をリードする人材を育成しています。	2007年開始
技能五輪教育訓練	若手選抜技能者を対象として、技能五輪（職業のオリンピック）の日本一、世界一取得を目指すことによる各種技能の強化訓練を目的とする。参加職種には曲げ板金、自動車板金、車体塗装、木型、旋盤等がある。	1962年から全国・国際大会に選手を派遣 ・選手派遣累計数　407名 ・全国大会優勝30名　入賞160名 ・国際大会優勝5名　入賞13名
アーク溶接技術教育訓練	選抜された若手技能者を対象として、アーク溶接技量の日本一を目指す溶接技能の強化訓練を目的とする。	1984年から全国大会に選手を派遣 派遣累計35名　優勝7名　入賞22名
卓越技能者養成コース	熟練技能者を対象として、自動車製造に関する24のコア技能の伝承による卓越した技能者の育成を目的とする。教育訓練は伝承者と継承者のマンツーマン方式で行います。	1996年7月に開講 伝承修了認定（技能マイスター）累計47名 継承修了認定累計96名

フォードとの関係

共同事業概要

マツダとフォード・モーター・カンパニーは、1979年11月に資本提携を結んで以来、長期にわたり良好なパートナーシップの関係のもと、生産、開発、販売、物流など事業活動のあらゆる領域において共同で取り組んでおり、互いのシナジーを追求しています。



■オートアライアンス・インターナショナル, Inc.（AAI）

設　　立:1992年6月
出資比率:マツダ50%、フォード50%
自動車の製造・販売
生産車種:アテンザ

■長安フォードマツダ汽車有限公司

設　　立:2006年3月
出資比率:マツダ15%、フォード35%、長安汽車50%
自動車の製造・販売
生産車種:デミオ（南京工場）、アクセラ（重慶工場）

■長安フォードマツダエンジン有限公司

設　　立:2005年9月設立
出資比率:マツダ25%、フォード25%、長安汽車50%
自動車エンジンの製造・販売

■オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.（AAT）

設　　立:1995年11月
出資比率:マツダ45%、マツダセールスタイランド5%、フォード50%
自動車の製造・販売
自動車用エンジンの組立・販売
生産車種:BT-50

フォードとの協力関係におけるこれまでの主な推移

1979年	11月	資本提携、フォードの持株比率25%
1982年	10月	オートラマチャネル営業開始（フォードブランド車販売）
1992年	6月	MMUCをオートアライアンス・インターナショナル, Inc.（AAI）と社名変更し、フォードと共同経営化
	7月	フォードと当社のオートラマへの出資比率を均等化
1993年	6月	フォードより小型トラックを購入し、「マツダBシリーズ」として北米で販売を開始
	12月	長期的観点から、両社間の協力拡大強化を狙った戦略的協力関係の構築に合意
1995年	11月	フォードと合弁で、タイに「オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.（AAT）」を設立
1996年	3月	フォードより小型乗用車を購入し、「マツダ121」として欧州での販売を開始
	5月	フォードとの戦略的協力関係強化、フォードの持株比率を25%から33.4%に引き上げ
	6月	ヘンリーD.G. ウォレス社長就任
1997年	1月	オートラマをフォードセールスジャパンに社名変更
	3月	フォードと商品サイクルプランの同期化／プラットフォームの共通化に基本合意
	11月	ジェームズE. ミラー社長就任
1998年	5月	AAT社で小型ピックアップトラックを生産開始
1999年	3月	当社の保有するフォードセールスジャパンの株式をフォードオブジャパンに売却
	11月	フォードと新型エンジンシリーズを共同開発し、分業生産することを発表
	12月	マーク・フィールズ社長就任
2000年	11月	フォードとの共同開発車「トリビュート」を国内で発売
2002年	1月	フォードグループのセンターオブエクセレンスとして開発した「MZRエンジン」の日本での生産を開始
	6月	ルイス・ブース社長就任
2003年	1月	フォードのバレンシア工場（スペイン）で「Mazda2」の生産を開始
2004年	6月	資本提携25周年　フォード会長兼CEOビル・フォード氏がマツダを訪問
2005年	9月	フォードおよび長安汽車と合弁で「長安フォードマツダエンジン有限公司」を設立
2006年	2月	長安フォード重慶工場にて「Mazda3」の生産開始
	3月	長安フォードにマツダが出資し、「長安フォードマツダ汽車有限公司」に社名変更
2007年	4月	長安フォードマツダエンジン有限公司でエンジンの生産開始
	10月	マツダとフォードはAAT社でBカーセグメントの小型乗用車を生産する新工場を建設することを発表
		長安フォードマツダ汽車有限公司南京工場で「Mazda2」の生産開始

社歴

1920－1986

1920年	1月	東洋コルク工業株式会社として創立
21年	3月	松田重次郎社長就任
27年	9月	東洋工業株式会社に改称
29年	4月	工作機械の製作開始
31年	10月	3輪トラックの生産開始
32年	ー	大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出
35年	10月	さく岩機の生産開始
45年	8月	（広島に原子爆弾投下）
		（第二次世界大戦終戦）
		建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（～'46年7月）
49年	8月	3輪トラック輸出再開（インド）
51年	12月	松田重次郎会長　松田恒次社長就任
58年	4月	小型4輪トラック「ロンパー」新発売
60年	5月	軽乗用車「R360」新発売
61年	2月	独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携
	8月	「B1500」新発売
62年	1月	韓国で現地組立開始
	2月	軽乗用車「キャロル」新発売
63年	3月	自動車生産累計100万台達成
	6月	南アフリカで現地組立開始
	10月	「ファミリアバン」新発売
64年	1月	「E2000」新発売
	4月	「ファミリア800ワゴン」新発売
65年	1月	英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携
	5月	三次自動車試験場完成
	10月	「プロシード」新発売
66年	5月	「ボンゴ」新発売
	8月	「ルーチェ」新発売
	11月	宇品乗用車専用工場完成
67年	3月	欧州向け本格輸出開始
	4月	オーストラリアに販売会社を設立
	5月	初のロータリーエンジン搭載車、「コスモスポーツ」新発売
	11月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
68年	7月	カナダに販売会社を設立
	9月	マレーシアで乗用車現地組立開始
69年	4月	ロータリーエンジン車本格輸出開始
	10月	フォード、日産、マツダの3社でJATCO（日本自動変速機）の設立合意
70年	3月	「ファミリア」シリーズ生産累計100万台達成
	4月	対米輸出開始
	5月	「カペラ」新発売
	11月	松田耕平社長就任
71年	2月	マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立
		インドネシアで現地組立を開始
	8月	「タイタン」新発売
	9月	「サバンナ」新発売
	12月	フォードへ「クーリエ」（プロシード）供給開始
72年	10月	マツダトレーニングセンター鯛尾完成
	12月	自動車生産累計500万台達成
1973年	3月	西ドイツに販売会社を設立
	10月	輸出累計100万台達成
		「ファミリア」をフルモデルチェンジ
74年	1月	フィリピンで現地組立を開始
	2月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	5月	三次ディーゼルエンジン工場完成
1975年	1月	タイで現地組立を開始
	10月	「コスモ」新発売
77年	1月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	10月	「ルーチェレガート」新発売
	12月	松田耕平会長、山崎芳樹社長就任
78年	1月	ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
	3月	「サバンナRX-7」新発売
	10月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
79年	1月	社章変更
	2月	対米輸出累計100万台達成
	6月	自動車生産累計1,000万台達成
	11月	フォードと資本提携
80年	1月	岩澤正二会長就任
	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	10月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
	12月	5代目ファミリアが「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
81年	4月	（対米乗用車輸出規制始まる）
		輸出累計500万台達成
		北米マツダ（MANA）を設立
	9月	「コスモ」をフルモデルチェンジ
	10月	「ルーチェ」をフルモデルチェンジ
	12月	防府中関変速機工場稼働開始
		「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
82年	9月	防府西浦工場本格操業開始
		「カペラ」をフルモデルチェンジ
	12月	カペラ／テルスターが「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
83年	4月	コロンビアで現地生産開始
	6月	「ボンゴブローニイ」新発売
	9月	「ボンゴ」をフルモデルチェンジ
84年	5月	マツダ株式会社へ社名変更
	10月	マツダ財団設立
	11月	渡辺守之会長、山本健一社長就任
85年	1月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
		米国生産会社（MMUC）を設立
	8月	乗用車生産累計1,000万台を達成
	10月	「サバンナRX-7」をフルモデルチェンジ
	12月	「ファミリアバン」をフルモデルチェンジ
86年	2月	「フェスティバ」新発売
	4月	ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
	9月	「ルーチェ」をフルモデルチェンジ
	11月	ファミリア生産累計500万台達成
	12月	マツダR&Dセンター、アンナーバー（米国）完成

社歴

1987－1996

1987年	1月	「エチュード」新発売
	4月	生産累計2,000万台を達成
	5月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	6月	技術研究所横浜研究所開設
	9月	米国生産会社（MMUC）で量産第1号車ラインオフ
	12月	スズキ（株）（鈴木自動車工業）との軽自動車生産協力を発表
		山本健一会長、古田徳昌社長就任
88年	5月	MI（マツダ・イノベーション）計画スタート
		マツダR&Dセンター、アーバイン（米国）完成
	6月	米国から「フォードプローブ」輸入開始
	10月	ヨーロッパに販売会社（MME）設立
		「ペルソナ」新発売
89年	2月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	4月	「ユーノス」「オートザム」設立
	5月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
	6月	東京支社を東京本社に呼称変更
		スズキ（株）からのOEM供給車「スクラム」新発売
	7月	「シトロエン車」輸入開始
	9月	「ユーノスロードスター」新発売
	11月	「ユーノス100」「ユーノス300」新発売
		「キャロル」（550）新発売
90年	1月	「MPV」新発売
		「プロシード」国内向け販売再開
	4月	「ユーノスコスモ」新発売
	5月	マツダ欧州R&D事務所（MRE）完成
	9月	「レビュー」新発売
	12月	生産累計2,500万台達成
91年	1月	「プロシードマービー」新発売
	5月	「センティア」新発売
	6月	「ユーノスプレッソ」新発売
		「AZ-3」新発売
		第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車として史上初の総合優勝
	10月	商用車累計1,000万台達成
		「クロノス」新発売
		「スクラム」をフルモデルチェンジ
		水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表
	11月	マツダオートチャネルを「アンフィニ」に変更
		「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売
	12月	「アンフィニRX-7」新発売
		古田徳昌副会長、和田淑弘社長就任

1992年	1月	「マツダMX-6」新発売
	2月	「ユーノス500」新発売
		防府第2工場本格操業を開始
	3月	「アンフィニMS-8」新発売
	4月	「マツダ地球環境憲章」を制定
	5月	「クレフ」新発売
	6月	米国生産会社（MMUC）をオートアライアンス・インターナショナル，Inc.（AAI）に社名変更し、フォードと共同経営化
	7月	オートラマへの出資比率をフォード社と当社で均等化
	10月	「AZ-1」新発売
	11月	天然ガスエンジン搭載乗用車を開発
	12月	古田徳昌会長就任
93年	1月	「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発
	3月	環境に関する行動推進計画を策定
	4月	ミラーサイクルエンジンの開発に成功
	5月	防府工場、生産累計300万台達成
		米国AAIでの生産累計100万台達成
	6月	フォード製「Bシリーズ・トラック」を北米で発売
	9月	「ランティス」新発売
	10月	「ユーノス800」新発売
	12月	フォードとの新しい戦略的協力関係構築を発表
94年	2月	タイタン天然ガストラックを開発
	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	8月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	9月	スズキ（株）からのOEM供給車「AZ-ワゴン」新発売
		日産からのOEM供給車「ファミリアバン、ワゴン」新発売
	11月	国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得
	12月	フォード向けトランスミッションの供給1,000万台を達成
95年	2月	「プロシードレバンテ」新発売
	4月	生産累計3,000万台達成
	6月	「ボンゴフレンディ」新発売
	10月	先進安全研究車「マツダASV」完成
	11月	「センティア」をフルモデルチェンジ
		「キャロル」をフルモデルチェンジ
		フォードと合弁でタイに「オートアライアンス（タイランド）社（AAT）」を設立
96年	2月	タイAAT社着工
	3月	フォード製「マツダ121」を欧州で販売開始
	4月	「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更
		「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合
		フォード社との戦略的協力関係を強化
		乗用車生産累計2,000万台を達成
	5月	フォード社の持ち株比率を25%から33.4%に引き上げ
	6月	開発からアフターサービスまでカバーするISO9001を国内自動車メーカーで初めて取得
		和田淑弘会長、ヘンリーD. G. ウォレス社長就任
	8月	自由型ワゴン「デミオ」新発売
	10月	「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	11月	「デミオ」が「日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞」を受賞
	12月	マツダデジタルイノベーション（MDI）に着手

1997－2002

1997年	2月	北米事業強化に着手
	4月	「新人事システム」を導入
	6月	「新ブランドシンボル」を制定
	7月	「ユーノス800」を「ミレーニア」に車名変更
	8月	「カペラ」をフルモデルチェンジ
	10月	北米事業を統合（MNAOスタート）
	11月	ウォレス社長退任、ミラー社長就任
		「カペラワゴン」をフルモデルチェンジ
	12月	倫理委員会を設置
		燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発
98年	1月	「ロードスター」をフルモデルチェンジ
		社章を変更
	3月	欧州事業を統合、強化
		MDIフェーズⅡ開始
	4月	ベンツ、フォード、バラード社とのFCEV事業に参加
		プロダクトフィロソフィーを制定
		防府工場が生産累計400万台を達成
	5月	「女性相談室」を設置
		タイAAT社で生産開始
	6月	「ファミリア」をフルモデルチェンジ
	8月	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）を設立
	9月	防府工場・西浦工場がISO14001を取得
	10月	新規格軽自動車「キャロル」「AZ-ワゴン」「AZ-オフロード」新発売
	12月	タイAAT社で輸出開始
99年	1月	「スクラム」をフルモデルチェンジ
	3月	「ラピュタ」新発売
	4月	アルデヒド除去剤「ライフ・ブレス」を開発
		ブランドメッセージ「心を動かす新発想」を発表
		「プレマシー」新発売
	6月	AAIが生産累計200万台を達成
		「ファミリアバン、ビジネスワゴン」をフルモデルチェンジ
		「ボンゴ」バン、トラック をフルモデルチェンジ
		三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意
		「MPV」をフルモデルチェンジ
	8月	女性社員の活用と処遇の改善策を発表
	9月	防府工場が環境ISO認証の取得を完了
	10月	先進安全研究車、「マツダASV-2」を開発
	11月	新型エンジンシリーズのフォードとの共同開発、分業生産を発表
	12月	ミラー社長退任、フィールズ社長就任
2000年	4月	燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクトに参加
	6月	「タイタン」をフルモデルチェンジ
		全国内生産拠点でISO14001認証を取得
	7月	「ロードスター」ギネスに認定
		メディアウェブサイトを開設
	9月	MDIフェーズⅢを開始
	10月	「タイタンダッシュ」新発売
	11月	中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
		「トリビュート」新発売

2001年	2月	日本初、インターネットを使った受注生産（BTO）を開始
		横浜（MRY）でロードショー「Mazda Mirai」を開催
		フランスに100％出資の卸売販売会社を設立
		燃料電池自動車「プレマシーFC-EV」を開発、国内初の公道走行試験を開始
		フランクフルト（MRE）でロードショーを開催
	3月	ニューヨークでロードショーを開催
		早期退職優遇特別プランを実施
	4月	広島本社で「Mazda Mirai」を開催
	5月	スズキと軽四輪車OEM契約を継続
	6月	マツダ防府工場、変速機の生産累計2,000万基を達成
	7月	イギリスの販売体制を強化
	9月	「マツダ・フレックスベネフィット」を導入
		スイスの販売を強化
		宇品第2工場を閉鎖
		労使共同宣言調印
	12月	新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
02年	1月	北海道　中札内試験場を竣工
		防府工場が累計生産台数500万台を達成
		MZRエンジンの日本での生産を開始
	2月	「スピアーノ」新発売
	3月	事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置
	4月	新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
		人材育成プログラム「Leading Mazda 21」を開発
		中・東欧の販売を強化
	5月	コーポレートガバナンスを強化
		「アテンザ」新発売
	6月	フィールズ社長退任、ブース社長兼CEO就任
	7月	「ロータリーエンジン発明者ヴァンケル博士生誕100周年記念展」に協力
		次世代エンジン「MZR1.3／1.5」を開発
		「セミドライ加工」で環境への負荷を軽減
		中国ビジネスを強化
		環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発
	8月	「Mazda6」（アテンザ）の中国生産を決定
		「マツダデミオ」をフルモデルチェンジ
		マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却
	9月	マツダアステックをサンドビックグループに営業譲渡
		機能統合モジュール技術を北米に展開
		米国AAI社でMazda6生産開始
	10月	国内生産体制の再編成を発表
		（U2工場再稼働、F工場閉鎖）
		「Mazda6」がニュージーランドのカー・オブ・ザ・イヤーを受賞
		国内販売網を強化（広域統合）
	11月	「マツダアテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	先進安全自動車の公道走行試験開始
		経営諮問委員会を設置

2003－2004

2003年	1月	欧州で「Mazda2（デミオ）」の生産を開始
		中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産を開始
		新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始
	2月	「マツダRX-8」の生産を開始
		摩擦熱を利用したアルミ材接合技術を世界で初めて開発
	4月	優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発
		「マツダRX-8」を発表
	5月	コモンレール式直噴ターボディーゼルエンジンを開発
	6月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞
	7月	いすゞ（株）と小型トラックのOEM供給で合意
	8月	ブース社長退任、井巻久一社長兼CEO就任
	9月	オーストリアのディストリビューターの全株式を取得
	10月	「マツダAZ-ワゴン」をフルモデルチェンジ
		マツダとフォード、タイAAT社に5億ドル投資することを発表
		「RENESIS水素ロータリーエンジン」を東京モーターショーに出品
		「マツダアクセラ」新発売
	11月	「マツダRX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞、「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		環境対応スリー・ウエット・オン塗装技術で第1回新機械新興賞を受賞

2004年	1月	「マツダRX-8」がオーストラリア自動車専門誌「Wheels」でカー・オブ・ザ・イヤーを受賞
	2月	販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大
		「Mazda3（日本名：マツダアクセラ）」がカナダ・カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
	3月	開発力強化のため新ステージのデジタル革新「MDI-Ⅱ」計画に投資
	4月	本社第1工場生産終了、国内生産体制再編
	5月	宇品第2工場を再稼働
		「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2.5～3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞
	6月	「マツダタイタン」を一新して発売、全ディーゼル車が新短期排出ガス規制をクリア
		フォード会長兼CEOが資本提携25周年を祝いマツダを訪問
		「マツダベリーサ」新発売
	7月	長安フォード、南京への投資に調印、マツダ（株）、フォードモーターカンパニー、長安汽車の3社協力を開始
	8月	新型スペースワゴン「Mazda5」を2004年パリモーターショーに出品
	9月	マツダレンタカーの全株式を譲渡
		「Mazda6 MPS」をパリモーターショーに出品
		「キャロル」をフルモデルチェンジ
	10月	新型「マツダプレマシー」を東京モーターショーに出品
		RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
	11月	「マツダベリーサ」が「2004-2005日本カー・オブ・ザ・イヤー」の特別賞「Best Value（ベスト・バリュー）」を受賞
		マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞
	12月	メキシコ市場への参入を発表
		2.3L直噴ガソリンターボエンジンを新開発、「マツダスピード アテンザ」に搭載
		宇品第1工場火災

2005－2006

2005年	2月	「マツダミュージアム」を全面リニューアル
		「マツダプレマシー」をフルモデルチェンジ
		省エネルギー実施優秀事例「経済産業大臣表彰」を3年連続で受賞
		本社敷地内に水素ステーションを開設
		新型「MAZDA MX-5」をジュネーブショーに出品
	3月	中国に統括会社を設立
	4月	広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約
		マツダ／フォード／長安汽車、南京のエンジン製造会社の合弁契約を締結
		新生宇品第1工場塗装ライン稼働
		自動車技術会より「浅原賞学術奨励賞」受賞
		バンパーからバンパーへのリサイクル実現
		ゲイリー・エー・ロウ氏、米国AAI社の社長兼CEOに就任
	5月	マツダ地球環境憲章を改訂、環境への取り組みをグループで強化
	6月	中国事業を統括する「マツダ（上海）管理諮詢有限公司」の開所式を実施
		世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発
		人気車種「アクセラ」生産体制を強化
	7月	地球温暖化防止のための55のアクションプランをスタート
	8月	中国技術支援センターを開設
		「マツダロードスター」をフルモデルチェンジ
		統括会社「マツダサウスイーストアジア　リミテッド」をタイに設立
	9月	「スクラムワゴン、バン」をフルモデルチェンジ
		マツダ／フォード／長安汽車集団、合弁で南京にエンジン会社を設立
	10月	新世代テレマティクス　MAZDA G-BOOK ALPHAを導入
	11月	ニュージーランドのディストリビューターの全株式を取得
		「マツダロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	12月	MZRエンジン（1.8L～2.3L）の生産能力を705千台に増強すると発表
		卸売販売会社「マツダモーターロシアOOO」設立（2006年4月営業開始）

2006年	1月	クロスオーバータイプの北米向けモデル「Mazda CX-7」を発表
		マツダ／三菱商事、エネルギー供給会社を設立
	2月	「マツダMPV」をフルモデルチェンジ
		「トリビュートハイブリッド」を米国オレンジカウンティ消防局へ提供
		「マツダMPV」、生産累計100万台を達成
		インドネシアに新たに卸売販売会社を設立
		ジュネーブモーターショーに「Mazda3 MPS」を出品
	3月	2006年バンコク国際モーターショーに「マツダBT-50」を出品
		「マツダ アテンザ」、世界累計生産台数100万台を達成
		商談支援ツール「ビジュアル　IT　プレゼンテーション」の導入を拡大
		世界初、水素ロータリーエンジン車「RX-8ハイドロジェンRE」をリース販売
		長安フォードにマツダが出資し、「長安フォードマツダ汽車有限公司」に社名変更
	4月	「エキスパート・ファミリー制度」を導入
		マツダ、ロシアの販売体制を強化
		マツダオートザム　販売累計台数100万台達成
		ニューヨーク国際自動車ショーに新型クロスオーバーSUV「Mazda CX-9」を出品
		「マツダスピアーノ」をマイナーチェンジ
		水素ロータリーエンジン車を広島県および広島市に納入
		「プレマシー」が日本と欧州の衝突安全性能評価で最高ランクを獲得
		自動車技術会より「浅原賞技術功労賞」および「技術開発賞」を受賞
	5月	産学官の連携で自動車用バイオプラスチックを開発
		美祢自動車試験場の開所式を実施
	6月	「マツダアクセラ」をマイナーチェンジ
		品質工学会より第1回「田口賞」を受賞
	7月	アイルランドに販売統括会社を設立
		防府工場の累計生産台数700万台を達成
		自動車運搬船「クーガーエース」事故
	8月	「マツダベリーサ」をマイナーチェンジ
		「マツダロードスター　パワーリトラクタブルハードトップ」を新発売
		「マツダアクセラ」、国内累計生産台数100万台を達成
	9月	オートアライアンス・インターナショナルが生産累計300万台を達成
		防府工場でのトランスミッション生産累計2,500万基を達成
		「マツダデミオ」、国内累計生産台数100万台を達成
	10月	チェコ共和国とスロバキア共和国に販売統括拠点を開設
		マツダオフィシャルウェブサイトを刷新
		「マツダCX-9」の生産を開始
		MZRエンジン（1.8L～2.3L）の生産能力を756千台に増強
	11月	「マツダMPV」2.3L　DISIターボエンジン車、エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞
		ロサンゼルスモーターショーにコンセプトカー「マツダ流／Mazda NAGARE」を出品
	12月	「マツダCX-7」を新発売
		「マツダキャロル」をマイナーチェンジ

2007

2007年	1月	北米国際自動車ショーにコンセプトカー「マツダ流雅（りゅうが）」を出品
		「マツダタイタン」をフルモデルチェンジ
		欧州での暦年販売台数が30万台を突破
		「マツダファミリアバン」をフルモデルチェンジ
		「マツダロードスター」が生産累計80万台を達成
	2月	北海道で水素自動車の寒冷地調査に協力
		米フォードのムラーリーCEOがマツダ本社を表敬訪問
	3月	ジュネーブモーターショーに新型「Mazda2」とコンセプトカー「マツダ葉風（はかぜ）」を出品
		水素ロータリーエンジン車を日本自動車研究所に納入
		新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定
		技術開発の長期ビジョン「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」を策定
		上海国際モーターショーに「マツダ流雅」を出品
	4月	ベルギー・ルクセンブルク市場に販売統括拠点を設立
		水素ロータリーエンジン技術を日本科学未来館に展示
		「タイランド・カー・オブ・ザ・イヤー」の3カテゴリーで受賞
		長安フォードマツダ南京工場で中国市場向け新型『Mazda2』の生産を開始
		自動車技術会より「浅原賞学術奨励賞」および「技術開発賞」を受賞
		中国合弁会社でのエンジン量産開始を発表
	5月	厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得
		ロータリーエンジン車発売40周年を迎える
		自然吸気MZR1.3L「ミラーサイクル」エンジンを新開発
	6月	広島地区におけるITS公道実証実験に参加

2007年	7月	広島-東海地区間のグリーン物流システムを構築
		「マツダデミオ」をフルモデルチェンジ
		国内生産累計4,000万台を達成
		タイAAT社が生産累計100万台を達成
		V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現
		水素ロータリーエンジン車を経済産業省に納入
	8月	フランクフルトモーターショーに新型「Mazda6」を出品
	9月	「マツダプレマシー」をマイナーチェンジ
		植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発
		中国合弁会社が南京車両工場の竣工式を実施
	10月	シングルナノテクノロジーを活用した自動車用触媒を開発
		東京モーターショーに新型「マツダアテンザ」「マツダ大気（たいき）」を出品
		タイAAT社の新乗用車工場計画を発表
		世界共通の顧客向け情報誌『Zoom-Zoom』を発行
	11月	広州モーターショーで中国市場向け新型車「Mazda2」と「Mazda5」を出品
		ノルウェー国家プロジェクトHyNor（ハイノール）に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入
		「マツダデミオ」が「2008年RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
		広州国際モーターショーで新型「Mazda2」セダンを世界初公開
		第39回技能五輪国際大会で金メダルを獲得
	12月	美祢自動車試験場の新テストコースが完成
		北米国際自動車ショーにコンセプトカー「マツダ風籟（ふうらい）」を出品
		「Mazda2」が欧州の衝突安全性能評価で最高ランクを獲得

製品名の由来

乗用車

国内名	意　味	発売年	由　来	海外名
デミオ Demio	私の～ （スペイン語からの造語）	1996	スペイン語を合成した造語で英語の“of mine”に相当します。「私の」「自分の」「俺の」という様に、「自分流の工夫をして楽しむ車」という気持ちをこめて命名したものです。	Mazda Demio Mazda2
ファミリア Familia	家族 （スペイン語）	1964	日本のモータリゼーションの発展期にあってファミリーカーのトップモデルにしたいとの思いを込めました。	Mazda 323
ベリーサ Verisa	真の充足 （造語）	2004	ベリーサは、イタリア語の“Verita（真実）”と英語の“Satisfaction（満足）”との造語で、「真の充足」という意味です。こだわりを持つ人と、それに応えるモノとの理想的な関係を表現しています。	—
アクセラ Axela	運転の喜びに伴う若々しい感情の高鳴りと無限に広がる可能性を表現している	2003	Accelerate（加速する、前へ進む）+"Accelerator"（アクセル）+"Excellent"（魅力的な、際立った、卓越した）を語源とした造語です。運転の喜びに伴う若々しい感情の高鳴り（"acceleration"）と、無限に広がる可能性（"x"）を表現しています。	Mazda3
アテンザ Atenza	注目 （イタリア語からの造語）	2002	マツダの新世代商品群の第一弾、Zoom-Zoomコンセプトを明確に体現した車として、人々の注目を浴びるよう、願いを込めて命名したものです。	Mazda6
RX-8	—	2003	Rはロータリーエンジン、Xは未来を表しています。新型ロータリーエンジン「RENESIS」を搭載した新世代ロータリー車として、新しいジャンルのスポーツカーを創造したいという思いを込めて命名したものです。	Mazda RX-8
ロードスター Roadster	2シーターの屋根なし自動車	1989	ロードスターは、カブリオレ・コンバーチブル・ランナバウト等と同じボディ形状を表す名称です。北米市場でのサブネーム、Miataは古いドイツ語で報酬・贈り物の意味を持っています。	Mazda MX-5 ※1
プレマシー Premacy	至上、至高 （造語）	1999	英語Supremacy（至上、至高）からの造語。品質と機能を高次元で実現させたこのクルマが、各市場においてお客さまの信頼を獲得するとともに、存在感のある固有の地位を確立できるという自信をこのネーミングに込め命名したものです。	Mazda Premacy Mazda5
ビアンテ Biante	周囲を取り巻く、環境（造語）	2008	「周囲を取り巻く」、「環境」といった意味の英語"Ambient（アンビエント）"から発想した造語であり、「乗る人みんなの生活環境の一部となり、楽しく快適な暮らしづくりに貢献する」を意図した。	—
MPV	多目的車	1988	Multi Purpose Vehicle（多目的車）の頭文字をとってアメリカ市場への発売時に名付けられたものです。	Mazda MPV Mazda8
トリビュート Tribute	感謝の証として捧げるもの／賛辞（英語）	2000	マツダの創造性および技術力をお客さまに捧げ、アクティブなライフスタイルの実現に寄与するという思いを込めて命名したものです。	Mazda Tribute
CX-7	—	2006	「CX」はクロスオーバー（cross over）車のラインナップを表すという思いを込めて命名したものです。	Mazda CX-7
CX-9	—	2007	「CX」はクロスオーバー（cross over）車のラインナップを表すという思いを込めて命名したものです。	Mazda CX-9
キャロル Carol	祝歌、鳥のさえずり （英語）	1962	1970年まで軽乗用車の名前として使用していた。若い女性の、「かわいらしい、楽しい、響きが良い」等の評価を得て復活させたものです。	—
AZ-ワゴン AZ-Wagon	—	1994	AZはオートザムの略です。	—
AZ-オフロード AZ-Offroad	—	1998	AZはオートザムの略です。	—
スピアーノ Spiano	広々としたところ （イタリア語）	2002	広々とした室内、上質なインテリアのイメージを持つ新タイプの軽自動車にちなんで命名したものです。	—

※1 北米向けにはMazda MX-5 に「Miata」のサブネームがつく。

商用車

国内名	意　味	発売年	由　来	海外名
ボンゴ Bongo	大カモシカ （英語）	1966	マツダが日本で初めて実現したワンボックスカーを、堂々とした大カモシカになぞらえました。	Mazda E-Series
ボンゴブローニイ Bongo Brawny	力強い （英語）	1983	ボンゴから派生させた一回り大きいモデルに、より力強いイメージを付与しようとしました。	Mazda E-Series
タイタン・ タイタンダッシュ Titan・Titan Dash	巨人 （英語）	1971	力強さが要求されるこのクラスのキャブトラックを、ギリシャ神話に登場する巨人一族になぞらえました。	Mazda T-Series Mazda E-Series
BT-50	—	2006	「BT」は従来モデルである「B-Series Truck」（Bシリーズトラック）の頭文字をあてたもの。また、"50"という数字はこの1トントラックが、積載量500kg程度の小型トラックと大型トラックの中間に位置することを示しています。	Mazda BT-50
ファミリアバン Familia van	家族 （スペイン語）	1964	日本のモータリゼーションの発展期にあってファミリーカーのトップモデルにしたいとの思いを込めました。	—
スクラム Scrum	腕・肩を組むこと （英語）	1989	ラグビー用語から転じて、お客さまやマツダグループの協調・連帯を期して命名したものです。	—

製品一覧

国内／乗用車

デミオ／Demio

ベリーサ／Verisa

アクセラ／Axela

アテンザ／Atenza

RX-8

ロードスター／Roadster

プレマシー／Premacy

ビアンテ／Biante

MPV

CX-7

キャロル／Carol

AZ-ワゴン／AZ-Wagon

スピアーノ／Spiano

スクラムワゴン／Scrum wagon

AZ-オフロード／AZ-Offroad

国内／商用車

ボンゴバン／Bongo van

ボンゴトラック／Bongo truck

ボンゴブローニイバン／Bongo Brawny van

タイタンダッシュ／Titan Dash

タイタン／Titan

ファミリアバン／Familia van

スクラムバン／Scrum van

スクラムトラック／Scrum truck

海外販売専用車種

Mazda BT-50

Mazda CX-9

Mazda Tribute

Mazda2 3ドアハッチバック

Mazda2 セダン

マツダ株式会社
広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670
マツダコールセンター／0120-386-919
発行／2008年9月

ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council
FSC
LEO
PRINTED WITH SOY INK
Waterless Printing Naturally
みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%